

EX3D3D

公民寶典 全

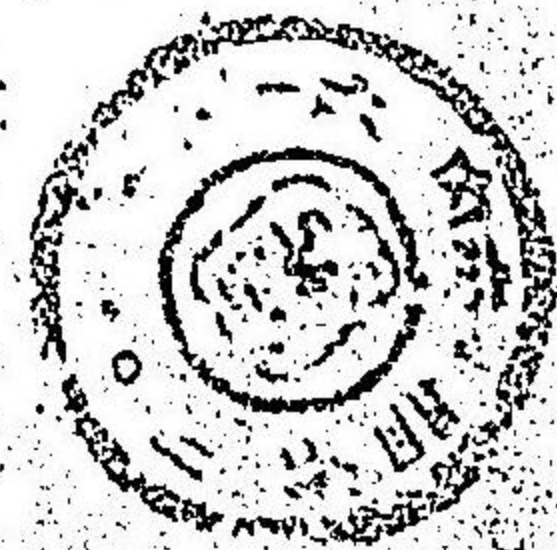
千葉縣知事 阿部 浩君題字
千葉縣書記官 三 村 實君題字
千葉縣警部長 松本郁朗君序文

水 戸 弘 文 社 藏 版

真

真

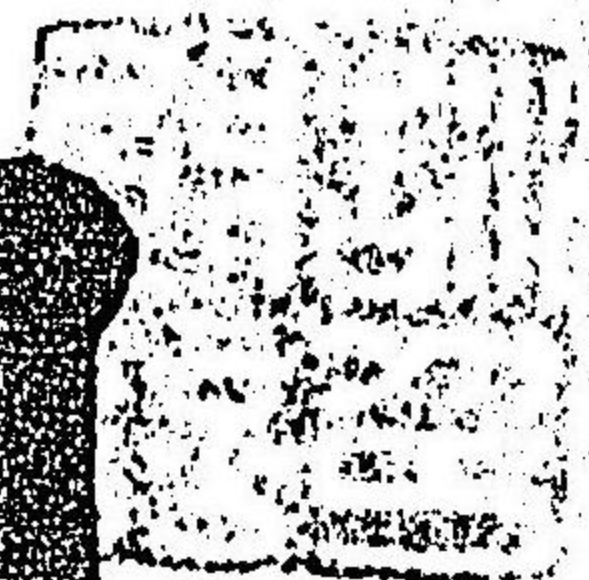
特 14
483 010



川魚

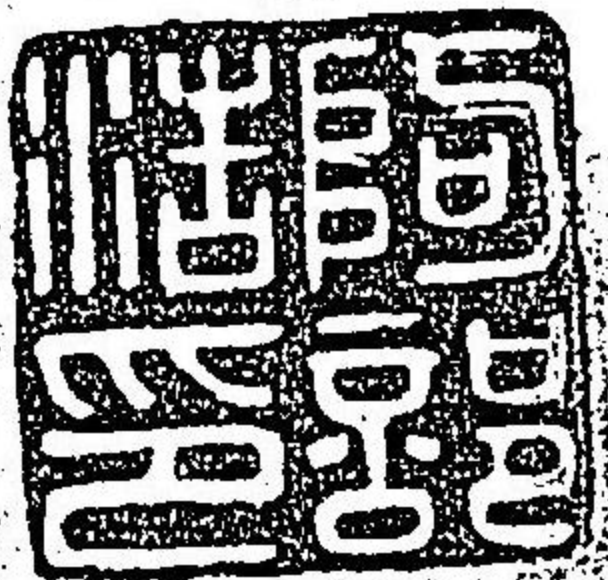


魚



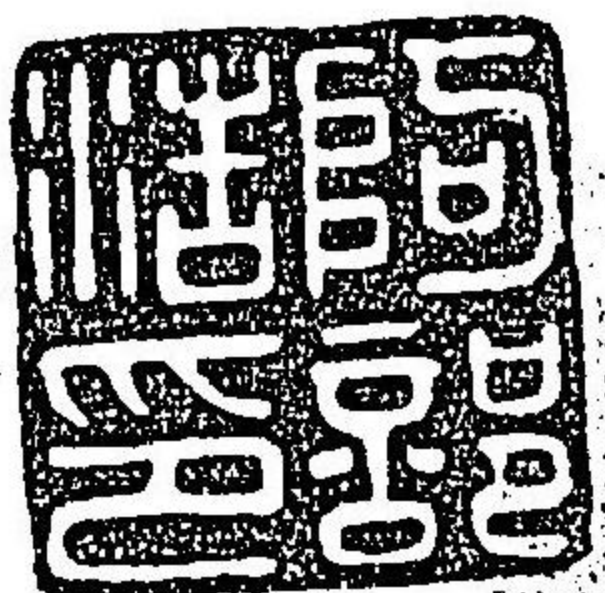
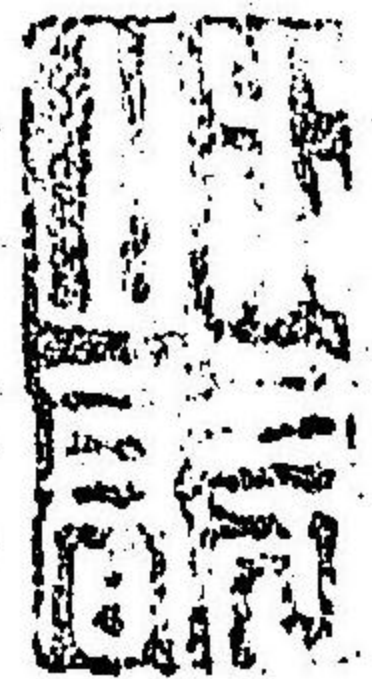
西中老

鐵筆



獨

張



丙申冬日
張

日
噴
香

士
教

叙

千葉縣公民寶典刻成、編者請予一言、
予披而閱之、上自法律勅令、下至願屆
等書式、細大網羅、無有缺遺、可謂官民
必携之寶典矣、抑曰法律、曰勅令、皆是
體也、其用則存于人耳、若夫運用而不
得宜乎、法文雖善則善矣、美則美矣、其
効用將據何而見之、然則世之解法譯
命者、不可不得用心於茲矣、古人有云、

運用之妙存於一心、予於讀此書者、亦云爾

明治二十九年十二月

松本郁朗誌

目次

第壹章	◎第壹款 詔勅及勅令	一
◎詔勅		一
◎帝國憲法		六
◎皇室典範		一五
◎議院法		二二
◎衆議院議員選舉法		三六
◎衆議院議員選舉法及貴族院會ニ於テ		三五
◎直接國稅ノ稱スル種目改正ノ件		五五
◎府縣會議員定數規則		五五
◎府縣會議員定數規則ニ關スル		五六
◎人口計算方心得		五七
◎府縣制		八〇
◎郡制		八〇
◎町村制		一一
◎市町村會議員選舉罰則		一四〇
◎議會並議員保護ノ件		一四四
◎衆議院議員選舉罰則補則		一四五
◎地租條例ニ關スル諸規則		一四六
◎地租條例		一四七
◎徵兵例		一五二
◎國民軍條例		一六一
◎國民軍召集規則		一六三
◎狩獵法		一六七
◎狩獵法施行細則		一七二
◎登錄稅法		一七五
◎登錄稅施行手續		一八六
◎酒造稅法		一八六
◎自家用酒稅法		二〇一
◎自家用酒稅施行規則		二〇三
◎混成酒稅法		二〇四
◎混成酒稅法施行規則		二〇六
◎沖繩縣酒類出港稅則改正		二〇七
◎勅令第六十一號稅率改正		二〇八
◎營業稅法		二〇八

◎營業稅法施行規則	二二八
◎煙草稅則改正	二二四
◎葉煙草專賣法	二二五
◎民法	
第一編 總則	
第一章 人	
◎第一節 私權ノ享有	二三〇
◎第二節 能力	二三〇
◎第三節 住所	二三四
◎第四節 失踪	二三四
第二編 法人	
第二章 法人ノ設立	
◎第一節 法人ノ管理	二四〇
◎第二節 法人ノ解散	二四三
◎第三節 罰則	二四三
第三章 物	
第四章 法律行為	

◎第一節 總則	二四八
◎第二節 意思表示	二四八
◎第三節 代理	二四九
◎第四節 無効及取消	二五三
◎第五節 條件及期限	二五四
第五章 期間	
第六章 時效	
◎第一節 總則	三五七
◎第二節 取得時效	三六〇
◎第三節 消滅時效	三六〇
第二編 物權	
第三章 總則	
◎第一節 占有權	二六三
◎第二節 占有ノ取得	二六四
◎第三節 占有權ノ消滅	二六七
◎第四節 準占有	二六八

第三章 所有權	
◎第一節 所有權ノ限界	二六八
◎第二節 所有權ノ取得	二七四
◎第三節 共有	二七五
第四章 地上權	
第五章 永小作權	
第六章 地役權	
第七章 留置權	
第八章 免先取特權	
◎第一節 總則	二八五
◎第二節 先取特權ノ種類	二八五
◎第一欸 一般ノ先取特權	二八五
◎第二欸 動產先取特權	二八七
◎第三欸 不動產ノ先取特權	二八九
◎第三節 先取特權ノ順位	二九〇
◎第四節 先取特權ノ效力	二九一
第九章 質權	

◎第一節 總則	二九三
◎第二節 動產質	二九五
◎第三節 不動產質	二九五
◎第四節 權利質	二九六
第十章 抵當權	
◎第一節 總則	二九七
◎第二節 抵當權ノ效力	二九八
◎第三節 抵當權ノ消滅	三〇三
第三篇 債權	
第一章 總則	
◎第一節 債權ノ目的	三〇三
◎第二節 債權ノ效力	三〇六
◎第三節 多數當事者ノ債權	三〇九
◎第一欸 總則	三〇九
◎第二欸 不可分債務	三〇九
◎第三欸 連帶債務	三一〇
◎第四欸 保證債務	三一二

◎第四節 債權ノ讓渡	三一七	◎第四節 交換	三四二
◎第五節 債權ノ消滅	三一九	◎第五節 消費貸借	三四二
◎第一款 辨濟	三一九	◎第六節 使用	三四三
◎第二款 相殺	三二五	◎第七節 質貸借	三四四
◎第三款 更改	三二六	◎第一款 總則	三四四
◎第四款 免除	三二七	◎第二款 質貸借ノ效力	三四五
◎第五款 混同	三二八	◎第三款 質貸借終了	三四七
第二章 契約		◎第八節 雇傭	三四九
第一節 總則	三二八	◎第九節 請負	三五一
◎第一款 契約ノ成立	三二八	◎第十節 委任	三五三
◎第二款 契約ノ效力	三三〇	◎第十一節 寄託	三五六
◎第三款 契約ノ解除	三三二	◎第十二節 組合	三五七
◎第二節 贈與	三三四	◎第十三節 終身定期金	三六一
◎第三款 賣買	三三五	◎第十四節	三六二
◎第一款 總則	三三五	第三章 事務管理	
◎第二款 賣買ノ效力	三三六	第四章 不當利得	
◎第三款 買戻	三四〇	第五章 不法行爲	

◎車稅則	三六八	◎第一款 市役所町村役場ニ要スル願届	一
◎戶籍法中心得方及改正	三六九	◎出生届	一
◎出生死去出入及寄留者届出方	三七一	◎人籍届	一
◎改定	三七二	◎轉住入籍届	一
◎戶籍戶取扱手續	三七六	◎死亡届	一
◎私生子ニ關スル件	三七七	◎死亡届	一
◎内外人婚姻ニ關スル件	三七七	◎送籍届	二
◎第二款 雜則	三七七	◎失踪(復歸)届	二
◎郵便稅摘要	三七八	◎復姓(改名)届	三
◎郵便貯金條例	三八七	◎家督相續(結婚)(離婚)届	三
◎諸印紙貼用規定	三九一	◎附籍届	三
◎民事訴訟法印紙貼用規則	三九六	◎出寄留届	四
◎聯隊區司令部條例並ニ配置	三九七	◎入寄留届	四
◎海軍區鎮守府配置ノ地	參九九	◎結婚入籍届	五
◎内國有名諸港へノ航海里程	四〇〇		
◎外國有名諸港へノ航海里程	四〇一		
◎徵兵事務條例	四〇參		
◎移民保護法	四一九		
◎特別賛成員	四二四		
◎第二章			

縣廳、郡役所、稅務署、裁判所、警察署
登記所、市役所、町村役場ニ要スル諸
願届書式

- ◎養子(女)入籍届 五
- ◎離婚復籍届 五
- ◎流産届 五
- ◎入夫妻(縁女)養子女送籍届 五
- ◎退隠跡相續届 六
- ◎亡籍相續届 六
- ◎分家送籍届 六
- ◎入夫(妻)離婚(養子女離縁)相續人離縁届 六
- ◎分家入籍届 七
- ◎管内分家届 七
- ◎離婚(縁)復歸=付携帶者入籍届 七
- ◎入夫妻離婚(養子女離縁)相續人離縁=付携帶者送籍届 七
- ◎管内結婚届 八
- ◎管内(離婚)離縁届 八
- ◎携帶者入籍届 八
- ◎轉住送籍届 八
- ◎管内縁組届 九

- ◎管内轉住届 九
- ◎失踪届 九
- ◎寄留者退去届 〇
- ◎改名届 〇
- ◎廢籍届 〇
- ◎廢戶主届 〇
- ◎私生子引受入籍届 一
- ◎後見人届 一
- ◎印鑑届 一
- ◎改印届 一
- ◎改肉届 一
- ◎代納人届 一
- ◎徵兵異動届 一
- ◎第參款 豫備後備下士兵卒歸休兵願届 一
- ◎結婚願 一
- ◎身元證書 一
- ◎婚姻濟届 四

- ◎離婚届 一五
- ◎勤務演習召集猶豫(簡閱點呼免除)願 一五
- ◎寄留地簡閱點呼及ヒ諸召集願 一五
- ◎旅費受領人届 一六
- ◎勤務演習召集願 一六
- ◎召集不參届 一七
- ◎診斷書 一七
- ◎召集不參届 一七
- ◎歸郷届 一八
- ◎轉任轉籍(養子)相續人届 一八
- ◎出産届 一九
- ◎死亡届 一九
- ◎復籍届 一九
- ◎寄留(旅行)届 二〇
- ◎死亡届 二〇
- ◎逃亡、失踪届 二一

- ◎處刑届 二一
- ◎第三款 郡役所、稅務署ニ要スル諸願届書式 二一
- ◎地所開墾届 二二
- ◎拂下(下渡)地届 二四
- ◎畦畔新設本地減 廢除本地增届 二五
- ◎地目變換届 二六
- ◎土地分列(合併)届 二九
- ◎丈量野取圖調製心得 三〇
- ◎官有森林原野拂下願 三一
- ◎立木(竹)拂下願 三二
- ◎生草拂下願 三二
- ◎官有原野豫約拂下願 三二
- ◎地種組替願 三三
- ◎凡列 三三
- ◎民有地第一種組替ノ例 三四
- ◎土地臺帳謄本下付願 三四
- ◎自家用料酒製造届 三四

◎自用料酒廢造屆	三五	◎種穀稔給與願	四〇
◎賣藥請賣願	三五	◎小屋掛料給與願	四〇
◎耕積車檢印願	三五	◎食料給與願	四一
◎耕作車檢印願	三五	◎農具給與願	四一
◎船舶鑑札下付願	三六	◎日本赤十字社入社申込書	四二
◎解船解車屆	三六	◎第四款 警察署及七裁判所ニ要スル諸願屆	四二
◎煙草營業願	三六	◎告訴狀	四二
◎煙草仕入(出賣)鑑札下付願	三六	◎診斷書	四三
◎菓子營業願	三七	◎告發狀	四四
◎菓子仕入(出賣)鑑札下渡願	三七	◎盜難申報書	四四
◎開業屆	三八	◎強盜申報書	四五
◎興行屆	三八	◎人相書	四五
◎移轉廢業屆	三八	◎失火申報書	四六
◎行商鑑札下付願	三八	◎旅人(下宿屋)(水質宿)營業願	四六
◎鑑札書換(再渡)願	三九	◎飲食店營業願	四七
◎質屋營業又ハ改名代替轉居屆	三九	◎質屋營業(取締鑑札書換)下付願	四七
◎水車新設願	三九	◎古物商營業願	四七

◎古物商行商ノ儀願	四八	◎身元保證金上納書	五五
◎演劇(其他何々興行)願	四八	◎人力車輓子屆	五五
◎砲銃買取手續	四八	◎營業者自ラ輓子トナルトキ鑑札屆書式	五五
◎銃砲買賣渡證	四九	◎廢業屆	五六
◎獵銃買取屆	四九	◎輓子解雇(失踪)(逃亡)(死去)屆	五六
◎銃砲買取願	五〇	◎碑表建設願	五六
◎彈藥買取願	五〇	◎碑表	五六
◎狩獵免狀下付願	五〇	◎斃馬屆	五六
◎銃砲讓與屆	五一	◎瘋癲人屆	五七
◎威銃免許願	五一	◎診斷書	五七
◎被害地反別及植物鳥獸各調書	五一	◎變死人屆	五八
◎實地零圖	五二	◎檢案書	五八
◎紛失屆	五三	◎始末書	五九
◎得遺物屆	五三	◎人殺傷申報書	五九
◎家出人搜索願	五三	◎貸金支拂命令申請書	六〇
◎人相書	五四	◎名刺式	六一
◎人力車營業願	五五	◎仮執行宣言申請書	六一

有体動産差押(不動産仮處分申請書)	六一	名刺	七一
強制競賣申立書	六二	委任狀	七一
濟口届	六三	地所賣渡(讓渡)證	七二
和解申立書	六三	名刺	七三
養子送籍請求ノ訴狀	六三	委任狀	七三
旅費(日當)(止宿料)請求書	六四	地所書入(質入)金員借用證	七四
親族證明願	六四	名刺	七四
委任狀	六五	委任狀	七五
請書	六五	名刺	七五
訴狀	六六	地所變更登記願	七六
控訴狀	六六	名刺	七六
答辨書	六八	死亡及相續證明願	七七
上告狀	六八	委任狀	七七
答辨書	六九	遺產相續ニ付登記願	七七
第五款 登記ニ要スル諸願届	七〇	名刺	七八
名刺	七〇	退隱跡相續證明願	七八
改印届	七〇	委任狀	七八
		名刺	七九

千葉縣公民寶典

第一章

第一款 詔勅及勅令

五箇狀ノ御誓文 明治元年三月十四日 布告

廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ

上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ

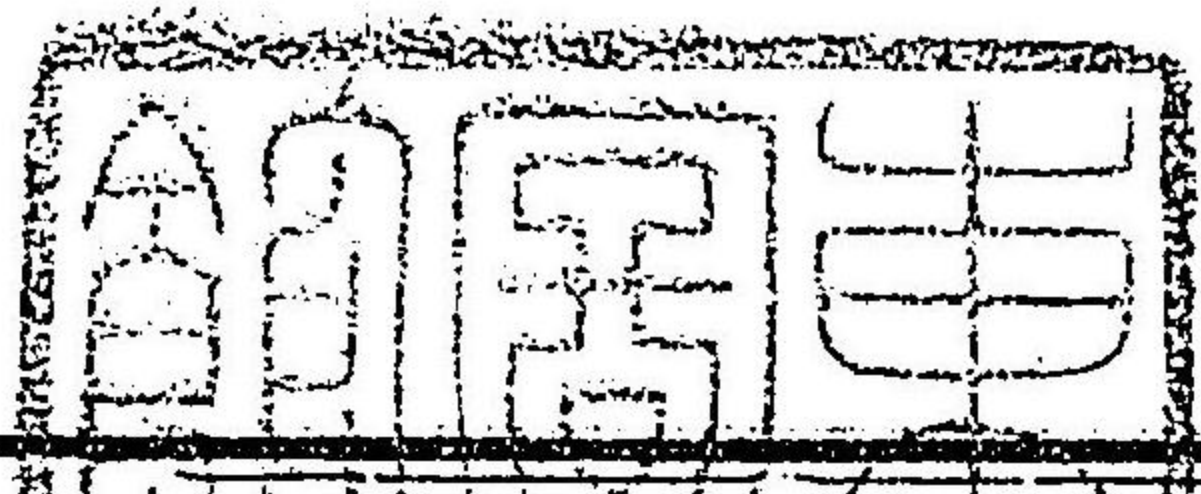
官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦サラシメンコトヲ要ス

一節來リ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ

一知識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ

我國未曾有ノ變革ヲ爲サントシ朕躬ヲ以テ衆ニ先ンシ天地神明ニ誓ヒ大ニ斯國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ立ントス衆亦此旨趣ニ基キ協心努力セヨ

戊辰三月 御諱 勅意宏遠誠ニ以感銘ニ不堪今日ノ急務永世ノ基礎此他ニ出ヘカラス臣等謹テ叙旨ヲ



奉體シ死ヲ誓ヒ阻勉從事冀クハ以テ宸襟ヲ安シ奉ラン

總 裁
公 卿
諸 侯

立憲效體ヲ立ツル詔勅

明治八年
四月十四日

(布告第五十八號)

別紙詔書ノ通被仰出候條此旨布告候事

〔別紙〕

朕即位ノ初首トシテ群臣ヲ會シ五事ヲ以テ神明ニ誓ヒ國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ求ム幸ニ宗祖ノ靈ト群臣ノ力トニ賴リ以テ今日ノ小康ヲ得タリ願ニ中興日淺ク内治ノ事當ニ振作更張スヘキ者少シトセス朕今誓文ノ意ヲ擴充シ茲ニ元老院ヲ設ケ以テ立法ノ源ヲ廣メ大審院ヲ置キ以テ審判ノ權ヲ革クシ又地方官ヲ召集シ以テ民情ヲ通シ公益ヲ圖リ漸次ニ國家立權政體ヲ立テ汝衆庶ト供ニ其慶ニ賴ント欲ス汝衆庶或ハ舊ニ泥ミ故ニ慣ル、コト莫ク又或ハ進ムニ輕ク爲スニ急ナルコト莫ク其レ能朕カ旨ヲ體シテ翼賛スル處アレ

明治八年四月十四日

◎國會開設ノ勅諭

朕祖宗二千五百有餘年ノ鴻緒ヲ嗣キ中古紐ヲ解クノ乾綱ヲ振張シ大政ノ統一ヲ總攬

シ又夙ニ立憲ノ政體ヲ建テ後世子孫繼クヘキノ業ヲ爲サンコトヲ期ス嚮ニ明治八年ニ元老院ヲ設ケ十一年ニ府縣會ヲ開カシム此レ皆漸次基ヲ創メ序ニ循テ歩ヲ進ムルノ道ニ由ルニ非サレハ莫シ爾有衆亦朕カ心ヲ諒トセン

願ミルニ立國ノ體國各宜シキヲ殊ニス非常ノ事業實ニ輕舉ニ便ナラス我祖我宗照臨シテ上ニ在リ遺烈ヲ揭ケ洪摸ヲ弘メ古今ヲ變通シ斷シテ之ヲ行フ責 朕カ躬ニ在リ將ニ明治二十三年ヲ期シ議員ヲ召シ國會ヲ開キ以テ 朕カ初志ヲ成サントス今在廷臣僚ニ命シ假スニ時月ヲ以テシ經畫ノ責ニ當ラシム其組織權限ニ至テハ 朕親ラ衷ヲ裁シ時ニ反テ公布スル所アラムトス
朕惟フニ人心進ムニ偏シテ時會速カルヲ競フ浮言相動カシ竟ニ大計ヲ避ル是レ宜シク今ニ及テ謨訓ヲ明徴シ以テ朝野臣民ニ公示スヘシ若シ仍ホ故ヲニ蹕急爭ヒ事變ヲ煽シ國安ヲ害スル者アラハ處スルニ國典ヲ以テスヘシ特ニ茲ニ言明シ爾有衆ニ諭ス奉勅

明治十四年十月十二日

太 政 大 臣 三 條 實 美

◎日本帝國憲法

(明治二十二年二月十一日)

○憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中忠ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ
 現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス
 惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力被翼ニ依リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無躬ニ
 垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威德ト並ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉
 ヒ以テ此光アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ
 子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉躰シ朕カ事ヲ獎勵シ相與ニ利衷協同シ益我カ帝國
 ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔
 ナ別ツニ堪アルコトヲ疑ハサルナリ
 朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ則チ朕カ祖宗ノ
 惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其懿德良能ノ發達セシム
 コトヲ願ヒ又其ノ翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持センコトヲ望ミ乃チ明治十
 四年十月十四日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及
 臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ覆行スル所ヲ知ラシム
 國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將
 來此ノ憲法ノ條章ニ從ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ
 朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之レテ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内
 ニ於テ其ノ享有ヲ安全ナラシムヘキコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有效
 ナラシムルノ期トスヘシ
 將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜チ見ルニ至ラハ朕及朕カ統
 ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之カ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ
 議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ
 朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民
 ハ此憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名 御璽

- 明治二十二年十月十一日
- | | |
|-----------|---------|
| 內閣總理大臣 | 伯爵 黑田清隆 |
| 樞密院議長 | 伯爵 伊藤博文 |
| 外務大臣 | 伯爵 大隈重信 |
| 海軍大臣 | 伯爵 西郷從道 |
| 農商務大臣 | 伯爵 井上馨 |
| 司法大臣 | 伯爵 山田顯義 |
| 大藏大臣兼內務大臣 | 伯爵 松方正義 |
| 陸軍大臣 | 伯爵 大山巖 |
| 文部大臣 | 子爵 森有禮 |

○大日本帝國憲法

第一章 天皇

- 第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
- 第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス
- 第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
- 第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ
- 第五條 天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ
- 第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス
- 第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス
- 第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災危ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス
- 此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フコトヲ公布スヘシ
- 第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルヲ得ス

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其ノ條項ニ依ル

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條 天皇ハ戰宣シ和ヲ講シ及諸航ノ條約ヲ締結ス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其他ノ榮典ヲ授受ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タル要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其他ノ公務ニ就クコトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納税ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルルコト

ナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ヲクシテ住所ニ侵入

セラレ及搜索セラルルコトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ祕密ヲ侵サルルコトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其所有權ヲ侵サルルコトナシ

公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信

教ノ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコト

ヲ得

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行

ヲ妨グルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限り

軍人ニ準行ス

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

以テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公撰セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

ヲ得

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各々法律案ヲ提出スルコト

トヲ得ス

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各々其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコト

ヲ得

但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ救命ヲ以テ之

ヲ延長スルコトアヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ通常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ
臨時會ノ會期ヲ定ムル救命ニ依ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ
衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ救命ヲ以テ新ニ議員ヲ撰擧セシメ解
散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各々其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ
議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所
ニ依ル

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス
但シ政府ノ要求又ハ其院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得

第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受ケレコトヲ得
第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲グルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸
規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ
負フコトナシ

但シ議員自ラ其言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ
一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院
ノ許諾ナクシテ逮捕セラルコトナシ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ
得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務大臣ハ天皇ヲ補弼シ其ノ責ニ任ス

凡テ法律勅令及其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務
ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ヲ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其職ヲ免セラルルコトナシ
懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ分開ス

但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手數料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歳出歳入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾

ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現往ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増減ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協賛ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ消滅スルコトヲ得ス

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ經續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安寧ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ由リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス
第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各々其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用キタルニ拘ハラズ此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有ス

歳出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

◎皇室典範 (明治二十二年二月十一日)

天佑ヲ享有シタル我カ日本帝國ノ寶祚ハ萬世一系歷代繼承シ以テ 朕カ躬ニ至ル惟

フニ祖宗肇國ノ初大憲一タヒ定マル昭ナルコト日星ノ如シ今ノ時ニ當リ宜ク遺訓ヲ明徴ニシ皇家ノ成典ヲ制立シ以テ丕基ヲ永遠ニ鞏固スヘシ茲ニ樞密顧問ノ諮詢ヲ經皇室典範ヲ裁定シ 朕カ後嗣子孫ヲシテ遵守スル所アラシム

○皇室典範

第一章 皇位繼承

第一條 大日本帝國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス

第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ

第三條 皇長子左ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス

第四條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル

第五條 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其子孫ニ傳フ

第六條 皇子兄弟及其子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及其子孫ニ傳フ

第七條 皇伯叔父及其子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ

第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

第九條 皇嗣精神若ハ身軀ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及

樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第二章 踐祚即位

第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗神器ヲ承ク

第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ

第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メザルコト明治元年ノ定制ニ從フ

第三章 成年立太子

第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス

第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス

第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

第十六條 皇后皇太子皇太子ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四章 敬稱

第十七條 天皇太皇太后皇太后皇孫后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條 皇太子皇太妃子孫太孫皇太孫妃親王妃内親王王妃女王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス

第九章 攝政

第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク

天皇久キコ目ルノ故障ニ由リ太政ヲ親ヲスルコト能ハサルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條 攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第二十一條 皇太子皇太孫在ラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス

第一 親王及王

第二 皇后

第三 皇太后

第四 太皇太后

第五 内親王及女王

第二十二條 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第二十三條 皇族女子攝政ニ任スルハ其ノ配偶アヲサル者ニ限ル

第二十四條 最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ他ノ皇族攝政ニ在シタルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇太子及太皇孫ニ對スルノ外其ノ任ヲ讓ルコトナシ

第二十五條 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身軀ハ重患アリ又ハ重大ノ事故アル

トキハ皇族會議及樞密顧問ノ職ヲ經テ其ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第六章 太傅

第二十六條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム

第二十七條 先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セサリシトキハ攝政ヨリ皇族會議及樞密顧問ニ諮議シ之ヲ選任ス

第二十八條 太傅ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得ス

第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サレハ太傅ヲ退職セシムルコトヲ得ス

第七章 皇族

第三十條 皇族ト稱フルハ太皇太后后皇皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王王妃女王ヲ謂フ

第三十一條 皇子ヨリ皇女孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ内親王トシテ五世以下ハ男ヲ女王ヲ王女トス

第三十二條 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟姉妹ノ王女王タル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス

第三十三條 皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第三十四條 皇統譜及前條ニ關ル記録ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス

第三十五條 皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十六條 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス

第三十七條 皇族男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮内ノ官僚ニ命シ保育ヲ掌ラシム事宜ニ依リ天皇其ノ父母ノ撰舉セル後見人ヲ詔可シ又ハ之ヲ勅撰スヘシ

第三十八條 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第三十九條 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニヨリ特ニ認許セラレタル華族ニ限ル

第四十條 皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル

第四十一條 皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮内大臣之ニ副署ス

第四十二條 皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 皇族國疆ノ外ニ旅行セントスルトキハ勅許ヲ請フヘシ

第四十四條 皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニ依リ仍内親王女王ト稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章 世傳御料

第四十五條 土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ス

第四十六條 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第九章 皇室經費

第四十七條 皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條 皇室經費ノ豫算決算檢査及其他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

第十章 皇族訴訟及懲戒
第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ敕旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命シ裁判セ

シメ敕裁ヲ經テ之ヲ執行ス
第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇

族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ目ヲ出ルヲ要セス
第五十一條 皇族ハ敕許ヲ得ルニ非サレハ拘引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス
第五十二條 皇族其ノ品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇族ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ敕

旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘ

シ
第五十三條 皇族蕩産ノ所行アルトキハ敕旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ

任スヘシ
第五十四條 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ敕裁ス
第五十五條 皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院議長宮内大

臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム

第十一章 皇族會議

第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命シテ議長タラシム

第五十七條 現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル

第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他ノ繼承タル

ノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ
第五十九條 親王内親王王女王ノ品位ハ之ヲ廢ス

第六十條 親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ抵觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

第六十一條 皇族財産歳費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ
第六十二條 特來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スヘキノ必要アルニ當テハ皇族

會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

◎議院法

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立

ノ日ヨリ各々本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ス

明治二十二年三月十一日

- | | |
|--------|---------|
| 内閣總理大臣 | 伯爵 黑田清隆 |
| 樞密院議長 | 伯爵 伊藤博文 |
| 外務大臣 | 伯爵 大隈重信 |

海軍大臣	伯爵西郷從道
農商務大臣	伯爵井上馨
司法大臣	伯爵山田顯義
大藏大臣兼內務大臣	伯爵松方正義
陸軍大臣	伯爵大山巖
文部大臣	子爵森有禮
遞信大臣	子爵榎本武揚

○議院法

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

第一條 帝國議會召集ノ敕諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條 議員ハ召集ノ敕諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各々三名ノ候補者ヲ撰舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ敕任スヘシ

議長副議長ノ敕任セラル、マテハ書記官長議長ノ職ヲ行フヘシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ互撰スヘシ

第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章 議長書記官及ヒ經費

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各々一員トス

第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ依リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議事ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條 議長ハ議會開會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得

但シ表決ノ數ニ預カラス

第十三條 議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ撰舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラルルマテハ

仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

書記官ハ議事録及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章 議長副議長及議員歳費

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院ノ被擧及敕任議

員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク

但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

議長副議長及議員歳費ヲ辨スルコトヲ得ス

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多

カラサル手當ヲ受ク

第四章 委員

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三種トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ニ數料ヲ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ

於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ撰舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ撰舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ撰舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互撰ス

第二十二條 全院委員長ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半

數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 常任委員及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス

但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシ

テ議會ノ審査ヲ繼續セシムコトヲ得

第五章 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先コスヘシ

但他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニアラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ

但シ政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省畧スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得
第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ由ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル、モノハ次ノ會期マテ公布セラルヘシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ停會ヲ命スルコトヲ得
議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス
但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第三十六條 開會ハ救命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 秘密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公會ヲ停ムルコトヲ得

一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ

二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用ヒマシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條 秘密會議ハ刊行スルヲ許サス

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取りタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上

ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ

但シ之カ爲ニ議員ノ演説ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラス

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サルトスルトキハ三十人以上ノ賛成アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辨ヲ爲シ又ハ答辨スヘキ期日ヲ定メ答辨ヲ爲ササルトキハ其ノ理由ヲ明示スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辨ヲ得又ハ答辨ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セントスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章 兩議院關係

第五十三條 豫算ヲ外クノ外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ
乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セザルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各々十人以下同數ノ委員ヲ撰舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用キ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各々一員ヲ互撰シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ錄シ每週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員卅人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ還付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條 請願書ヨシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用キ政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ式語ヲ用キタルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受タルコトヲ得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ク互ニ相干預セス

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ秘密ニ涉タルモノヲ除ク外其求ニ應スヘシ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ撰舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ

退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シテ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當撰訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラル、ニ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス

但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辨スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

第十六條 請暇辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ越エサル議員ノ請暇ヲ許可スルコトヲ得其一週間ヲ越エサルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ關員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ内務

大臣ニ通牒シ補剛擢舉ヲ求ムヘシ

第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條 傍聽ハ議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官驅コ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場シムルコトヲ得

第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用ヒルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章 懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ケ懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

- 一 公開シタル議場ニ於テ罷責ス
- 二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム
- 三 一定ノ時間出席ヲ停止ス
- 四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得
 懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ
 第九十九條 議員正當ノ理由ナクテ敕諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應
 セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルニ由リ若ハ請假
 ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内
 ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ敕裁ヲ請フ
 ヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

◎衆議院議員選舉法

朕躬密顧山ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選舉法及附錄ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ帝
 國議ヲ召集スルノ年ヨリ本法ニ依リ選舉ヲ施行セシムヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

內閣總理大臣	伯爵 黑田清隆
樞密院議長	伯爵 伊藤博文
外務大臣	伯爵 大隈重信
海軍大臣	伯爵 西郷從道

農商務大臣	伯爵 井上馨
司法大臣	伯爵 山田顯義
大藏大臣兼內務大臣	伯爵 松方正義
陸軍大臣	伯爵 大山巖
文部大臣	子爵 森有禮
逓信大臣	子爵 榎本武揚

法律第三號

◎衆議院議員選舉法

第一章 選舉區畫

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシム其ノ選舉區及各選舉
 區ニ於テ選舉スヘキ定員ハ此ノ法律ノ附錄ヲ以テ之ヲ定ム
 第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス
 一 選舉區ノ選舉ハ郡長又ハ市長其ノ選舉長トナリ之ヲ管理ス
 第三條 一 選舉區ニ於テ郡市ニ涉ルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ一人ヲ
 命シ選舉長トシムヘシ
 第四條 一 市ノ域内ニ於テ數選舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ選舉長ト
 シムヘシ

第五條 撰舉ニ關フル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第二章 撰舉人ノ資格

第六條 撰舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齡二十五歲以上ノ者

第二 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居

シ仍引續キ住居スル者

第三 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓

以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ヲ付テハ人各簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續

キ納ムル者ニ限ル

第七條 家督ニ由リ財産ヲ相續シタル者ハ其ノ財産ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其

ノ納稅資格ニ算入ス

第三章 被選人ノ資格

第八條 被選人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ撰舉人名簿

調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ撰舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍

引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ム

ル者ニ限ル

第九條 宮内官裁判官會計検査官收稅官及警察官ハ被選人タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其職務ニ妨ケサル限職員ト相兼タルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十一條 撰舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ撰舉區ニ於テ被選人タルコト

ヲ得ス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ撰舉セラレ當撰ヲ承諾シタルトキハ

其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス

第四章 撰舉人及被選人ニ通スル規定

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ルル者ハ撰舉人及被選人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白痴ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

三 公權ヲ剝奪セラレタルモノ又ハ停止中ノ者

四 禁錮刑ニ處セラレ滿期後滿三年ヲ經サル者

五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免

ノ後三年ヲ經サル者

六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿二年ヲ經サル者

七 撰舉ニ關ル犯罪ニ由リ撰舉權及被撰舉權ノ停止中ノ者

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中撰舉權ヲ行フコトヲ得ス其被撰入タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニアル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ撰舉及被撰入タルコトヲ得ス

第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ撰舉權ヲ行フコトヲ得ス

第五章 撰舉人名簿

第十八條 撰舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域内ニ於テ撰資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ

撰舉人名簿ハ撰舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國稅ノ納額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テハ撰舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其

ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ撰舉長ニ差出サシムヘシ

第三 郡市ヲ合シテ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ撰舉長トナリタルキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ撰舉長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二十條 撰舉人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ノ證狀ヲ得テ撰舉人名簿調製ノ期日マテニ其ノ投票ヲ管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條 撰舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル撰舉人名簿ヲ合シテ撰舉區ヲ以テ一冊トシ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ備置キ其ノ副本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ

第二十二條 撰舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一撰舉區撰舉人名簿ノ寫ヲ其ノ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ

第二十三條 凡テ撰舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證憑ヲ具ヘテ縦覽期限内ニ撰舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得

縦覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其妨ナシ

第二十四條 撰舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ニ判定スヘシ若其申立ヲ以テ正當ナリト判定セタルトキハ直ニ其人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第二十五條 撰舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審査シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告ノ所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ撰舉長ノ判定ニ服セサルトキハ撰舉長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十九條 撰舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ据置クヘシ但シ裁判言渡書ニ依リ改正スヘキモノハ撰舉長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取リタル時ヨリ二十四日以内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村

長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第六章 撰舉ノ期日及投票所

第三十條 撰舉ノ投票ハ通常四月一日ニ之ヲ行フ

但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時撰舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以内ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ撰舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設ケルニ足ラサルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ許可ヲ經テ合併ノ町村及投票所並ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル撰舉人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ遅クトモ撰舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ撰舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ鑰ヲ設ケ其ノ一ハ町村長之ヲ管守シ其ノ一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル撰舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 撰舉人ハ撰舉ノ當日日本人自ラ投票所ニ至リ撰舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ府縣各々一定ノ式ヲ用キ撰舉ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各撰舉人ニ交付スヘシ

撰舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被撰人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シ捺印スヘシ

第三十九條 撰舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由チ申立ルトキハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由チ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條 二人以上ノ職員ヲ撰舉スヘキ撰舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ウヘシ

第四十一條 撰舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但シ撰舉人名簿ニ記載セラレハキ裁判言渡書ヲ所持シ撰舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交附シ投票セシメ其ノ由チ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由チ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後、總テ投票スルコトヲ許サス

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條 一撰舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情况アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ撰舉ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ撰舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 撰舉會

第四十六條 撰舉會ハ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 撰舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ撰舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第四十八條 撰舉長ハ投票函送達ノ翌日撰舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人ト總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由チ撰舉明細書ニ記載スヘシ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ撰舉長ハ撰舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘ

第五十條 各撰舉區ノ撰舉人ハ其ノ撰舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 左ニ掲グル投票ハ無効トス

一 撰舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此限ニ在ラス

二 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ

三 撰舉人自己姓名ヲ記載セサルモノ

四 資格ナキ被撰人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ效アルモノトス

五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ撰舉人又ハ被選人ノ地名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名ヲ用キ又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用キタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 投票效力ノ有無ニ付疑義アルトキハ撰舉委員ノ意見ヲ聞キ撰舉長之ヲ

決定ス此ノ決定ニ對シテハ撰舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ撰舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ撰舉スヘキ定員ヨリ多キ被撰人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其ノ撰舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ

但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十六條 撰舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

第五十七條 撰舉長ハ撰舉明細書ヲ作り選舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ撰舉委員ト共ニ署名シテ之ヲ保存スヘシ

第九章 當選人

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當撰トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當撰人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ

之ヲ定ムヘシ。

第五十九條 當選人定マリタルトキハ撰舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當撰ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十二條 一人ニシテ數撰舉區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ撰舉區ノ當撰ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ出ヘシ

第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當撰承諾ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ當撰ヲ辭シタル者ト見做スヘシ

第六十四條 當選人ニシテ其ノ當撰ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當撰ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ撰舉ノ期日ヲ定メ其ノ撰舉長ニ命シ再ヒ撰舉ヲ行ハシムヘシ

但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニヨリ當撰ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニヨリ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ撰舉人ト定ムヘシ

第六十五條 各撰舉區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管

内ニ告示シ茲ニ當選人資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章 職員ノ任期及補闕撰舉

第六十六條 職員ノ任期ハ四ケ年トス但シ任期ヲ終リタル後撰舉ニ應スルコトヲ得

第六十七條 職員ノ闕員アルニ由リ内務大臣ヨリ補闕撰舉ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ闕員ノ撰舉區ニ限リ

臨時撰舉ヲ行ヒ補闕職員ヲ撰舉セシムヘシ

第六十八條 補闕職員ノ任期ハ前職員ノ任期ニ依ル

第十一章 投票所取締

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第七十條 凡テ武器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十一條 撰舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演説討論及喧嘩ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ従ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

第七十四條 投票ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル

爲ニ再ビ投票所ノ内ニ呼入ルコトヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立コ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十七條 撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ撰舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十二條ニ至ルマテノ例ニ照シ撰舉長之ヲ處分スヘシ

第十二章 當撰訴訟

第七十八條 各撰舉區ニ於テ當撰ヲ失ヒタル者當選人ノ當撰ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケタル當撰人ノ地名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金參百圓又ハ之ニ相當スル公債證書ヲ控訴院書記局ニ預置クヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ完納セサルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ尙足ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第八十一條 同一ノ當撰人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ

一ノ裁判言渡書ヲ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下クルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條 控訴院ハ當撰訴訟ヲ審判スルニ當リ訴本ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシムヘシ

當撰訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第八十五條 控訴院ニ於テ當撰訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判言渡書ノ原本ヲ內務大臣ニ送付スヘシ若シ衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送致スヘシ

第八十六條 當撰訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十七條 訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條 當撰訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノノ外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章 懲罰

第八十九條 納稅額年齡住所及其ノ他撰舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ撰舉人名簿

記載セラレタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ撰舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ撰舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス
其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲ササル者亦同シ

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ撰舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條 撰舉人ニ暴行ヲ加ヘ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 撰舉人ヲ強迫シ又ハ投票所若ハ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ

處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十五條 撰舉ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前二條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ノ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ投票所若ハ撰舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當撰人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタ

ルトキハ其ノ當選ハ無効トス
 第百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依ル撰舉人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下撰舉權及被撰舉權ヲ停止ス
 第百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各々其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス
 第百四條 凡テ撰舉ニ關ル罪ハ六ヶ月ヲ以テ濶期免除トス
 第百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及撰舉會場ニ貼示スヘシ
 第十四章 補則
 第百六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及撰舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ
 第百七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル撰舉區内ニ於ケル撰舉

入中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ遅クトモ撰舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ撰舉ノ當日ノ撰舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ
 立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ点檢スヘシ
 此場合ニ於ケル撰舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ
 第百八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ノ規定シタル撰舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ
 第百九條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ノ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ルヘシ
 第百十條 撰舉人名簿調製ノ初年ニ限り所得税法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ルモノト見做スヘシ
 第百十一條 北海道沖繩縣及小笠原嶋ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ準行スルノトキニ至ルマデ此ノ法律ヲ施行ス
 ◎衆議院議員撰舉法及貴族院令ニ於テ直接國稅ト稱スル種目ニ關スル明治二十二年勅令第四十一號中改正(明治二十九年七月一日) (勅令第二百六十三號)
 明治二十二年勅令第四十一號中「所得稅」ノ次ニ「營業稅」ノ一項ヲ追加ス
 ◎府縣會議定數規則
 明治二十四年六月九日 (敕令第五十九號)

朕府縣會議員定數規則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○府縣會議員定數規則

第一條 府縣制第二條ニ依リ府縣會議員數ヲ定ムルコト左ノ如シ
管内ノ人口七十萬迄ハ議員三十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬迄ハ五萬ヲ加フ
ル毎ニ一人ヲ増シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増ス

第二條 前條定ムル所ノ議員ハ人口ニ應ヒテ郡市ヲ割當撰舉スルモノトス

第三條 人口増減ノ爲メ議員ノ定數又ハ郡市ノ割當ニ異動ヲ生スルトキハ其改撰期
ヲ待チ之ヲ増減ス可シ

第四條 府縣制第二十七條ニ依リ府縣會ノ職權ニ屬スル事件ヲ郡市ニ分別シタル府
縣ニ於テ本規則ニ依リ市若クハ郡ヨリ選出スヘキ議員ノ數十名ニ滿タサルトキハ
其定數ヲ十名ト爲スヘシ

○府縣會ノ議員定數規則ニ關スル人口計算方必得（明治二十四年六月十一日）
（內務省訓令第一號）

本年六月敕令第五十九號ニ掲グル人口毎年末日十二月ノ現在人口ヲ云フ但在營在監
ノ現役軍人ハ其營所又ハ定繫港在所地ノ人口ニ算入セス但本籍地ノ人口ニ加フヘキ
儀ト心得ラルヘシ

朕府縣制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月十七日

內閣總理大臣
兼內務大臣

伯爵 山縣 有朋

○府縣制

第一章 總則

第一條 府縣ノ廢置分合及府縣境界ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
府縣境界ニ當ル郡市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ府縣境界モ亦自ラ變更スルモノ
ルトス

本條ノ處分ニ付其財產處分ヲ要スルトキハ內務大臣之ヲ定ム但特ニ法律ノ規定ア
モノハ此限ニアラス

第二章 府縣會

第二條 府縣會ハ府縣內郡市ニ於テ撰舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス
郡市ニ於テ撰舉スヘキ府縣會議員ノ定數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但郡市ヲシテ少ク
トモ一人ノ議員ヲ撰舉セシムヘシ

第三條 府縣會議員ノ撰舉ハ市ニ在テハ市會及市參事會々同シ市長ヲ會長トシ郡ニ
在テハ郡會郡參事會々同シ郡長ヲ會長トシ左ノ規定ニヨリ之ヲ行フヘシ但會長ハ
投票ニ加ハラサルモノトス

一 投票ハ撰舉人自ラ會長ノ面前ニ於テ之ヲ投票函ニ投入ス

投票ハ匿名トス

二 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 記載セル人名ノ讀ミ難キモノ
 - 二 被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
 - 三 被撰權ナキ人名ヲ記載スルモノ
 - 四 被選人氏名ノ外他ノ文字ヲ記入スルモノ但辭位職業身分住所又ハ敬稱ハ此限ニ在ラス
- 本項一ヨリ三ニ至ルノ場合ニ於テ票中他ニ列記ノ被選人ニ付テハ仍其效アリトス
- 三 有効投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取リ年齡相同キトキハ會長自ラ抽籤シテ其當撰ヲ定ム
- 第四條 府縣内市町村ノ公民中撰舉權ヲ有シ其府縣ニ於テ一年以來直接國稅十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會ノ被撰權ヲ有ス
- 住居ヲ移シタル爲市町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同府縣内ニ在リ且他ノ要件ヲ失ハサルトキハ仍府縣會ノ被撰權ヲ有ス
- 其府 東京府ハ警 縣ノ官吏及有級吏員神官諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ府縣會議員タルコトヲ得ス
- 前項ノ外ノ官吏ニシテ當選ノ之ニ應セントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受クヘシ
- 府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

- 第五條 府縣會議員ハ名譽職トス其任期ハ四年トシ毎二年其半數ヲ改撰ス若其員數二分シ難キトキハ初會ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初會ニ於テ解任スヘキ者ハ府縣會議長府縣會ニ於テ自ラ抽籤シテ之ヲ定ム
- 解任ノ議員ハ再撰セラルルコトヲ得
- 第六條 議員中議員アルトキハ遅クトモ六ヶ月以内ニ補闕撰舉ヲ行フヘシ
- 補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス
- 第七條 府縣會議員ノ撰舉ハ府縣知事ノ告示ニヨリ之ヲ行フヘシ其告示ハ遅クトモ撰舉ノ日ヨリ十四日前ニ之ヲ發スヘシ
- 第八條 撰舉ヲ終リ當撰人ノ定マリタルトキハ郡長市長ハ直ニ當撰人ニ通知シ及府縣知事ニ報告スヘシ
- 當撰人其當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其當撰ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ
- 一人ニシテ數箇所ノ撰舉ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ撰舉ニ應ズヘキコトヲ府縣知事ニ届出ヘシ
- 前二項ノ届テ其期限内ニ爲ササルトキハ總テ撰舉ヲ辭スル者ト視做スヘシ
- 第九條 當撰人其當撰ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲ササルトキハ府縣知事ハ其郡市ヲシテ十日以内ニ更ニ撰舉ヲ行ハシムヘシ

第十條 當撰人確定シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當撰證書ヲ付與シ及管内ニ告示スヘシ

第十一條 撰舉人撰舉ノ效力ニ關シテ訴願セントスルトキハ撰舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ルコトヲ得

第十二條 當撰人其當撰ノ際資格ノ要件ヲ有セザリシコト發覺スルトキハ其當撰ハ無効トス

當撰人當撰後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員ノ職ヲ失フモノトス

第十三條 府縣會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハ其議決ヲ以テ之ヲ府縣知事ニ通知スヘシ

第十四條 府縣會議員被撰權ノ有無及撰舉ノ効力ハ府縣參事會之ヲ裁決ス

府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

- 一 府縣ノ歲入出豫算ヲ定ムル事
- 二 決算報告ヲ認定スル事
- 三 府縣稅ノ賦課徵收方法ヲ定ムル事
- 四 縣有不動産ノ賣買交換讓渡讓受並ニ質入書入ノ事
- 五 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ

爲ス事

六 府縣有財産ノ管理及營造物ノ維持方法ヲ定ムル事

其他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス

第十六條 府縣會ハ其權限ニ屬スル事件ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得

第十七條 府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

府縣會ハ其府縣全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付府縣知事又ハ內務大臣ニ建議スルコトヲ得

第十八條 府縣會議員ハ撰舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラサルモノトス

第十九條 府縣會ハ改撰後ノ初會ニ於テ議長及副議長各一名ヲ互撰スヘシ其任期ハ議員ノ任期ニ從フ

議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時議長ヲ互撰スヘシ

第二十條 府縣知事若ハ特ニ知事ノ委任ヲ受ケタル府縣ノ官吏若ハ吏員ハ府縣會ノ議事ニ參與スルコトヲ得但議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ何時ニテモ之ヲ許スヘシ

第二十一條 府縣會ハ毎年一回秋季ニ於テ通常會ヲ開ク通常會ノ會期ハ三十日以内トス其他必要アルトキハ其事件ニ限リ七日以内ヲ會期トシテ臨時會ヲ開クコトヲ得

府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス其招集ハ開會ノ日ヨリ十四日前迄ニ告示スヘシ但急施ヲ要スル場合ハ此限ニアラス

府縣會ハ府縣知事之ヲ開閉ス

第二十二條 府縣會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 府縣會ノ議決ハ過半数ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十四條 議員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ府縣會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

第二十五條 府縣會ニ於テ撰舉ヲ行フトキハ第三條ノ規定ニ依ルヘシ

第二十六條 府縣會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合ハ此限ニ在ラス

一 府縣知事ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員五名以上ノ發議ニ由リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

議長又ハ議員ノ發議ハ討議ヲ用キスシテ其可否ヲ決スヘシ

第二十七條 東京府京都府大阪府府會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ專ラ東京市京都市大坂市ニ關スルモノト專ラ其他ノ部分ニ關スルモノト分別スルコトヲ要スルモノアルトキハ府會ノ議決ニ依リ之ヲ分別スルコトヲ得

前項ノ分別ニ依リ專ラ東京市京都市大坂市ニ關スルモノハ其郡部議員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス其他ノ分部ニ關スルモノハ市部議員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス此場合ニ於テハ郡部議員市部議員ニ於テ各臨時議長ヲ互撰スヘシ

此法律中東京府京都府大阪府府會ノ市部議員トアルハ東京市京都市大坂市々會ニ於テ撰舉シタル議員ヲ云ヒ郡部議員トアルハ東京市京都市大坂市ヲ除キ其他ノ部分ニ於テ撰舉シタル議員ヲ云フ

第二十八條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及撰舉ノ專ヲ總理シ其日ノ會議ヲ開閉シ並ニ延會シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第二十九條 議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第三十條 會議中此法律若ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サンム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムヘシ若強抗ニ涉ル者アルトキハ警察官ニ命シテ之ヲ退去セシムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第三十一條 議員中議場ノ秩序ヲ紊ルコト二回以上ニ及ブ者アルトキハ議長又ハ議

員ノ發議ニ依リ議會ノ決ヲ以テ七日以内其出席ヲ停止スルコトヲ得

第三十二條 會議ノ傍聽人公然可否ヲ表シ又喧騒ニ涉リ其他議事妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若命ニ從ハサルトキハ警察官ニ命シテ之ヲ退場セシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第三十三條 府縣知事若ハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏若ハ吏員及議員ハ議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第三十四條 第三十條第三十二條ニ依リ議長ノ命ニ應セシムル爲府縣知事ハ(東京府ハ警視總監)每會期警察官ニ議場掛專務ヲ命スヘシ

第三十五條 府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム書記ハ議長之ヲ撰任ス

第三十六條 府縣會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ議決及選舉ノ顛末並ニ出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其議員ハ會議ノ前議會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録中ニ其氏名ヲ記載シ置クヘシ

第三十七條 府縣會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ内務大臣ノ認可ヲ受テ之ヲ施行スヘシ

第三章 府縣參事會吏員及委員

第三十八條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ府縣知事高等官二名及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

府ノ名譽職參事會員ハ八名トス郡部議員ニ於テ其議員中ヨリ四名ヲ互撰シ市部議員ニ於テ其議員中四名ヲ互選スヘシ

縣ノ名譽職參事會員ハ四名トス縣會ニ於テ其議員中ヨリ之ヲ互撰スヘシ

第三十九條 府縣參事會員タル高等官ハ府縣廳ニ奉職ノ高等官中ヨリ内務大臣之ヲ命ス

第四十條 府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ高等官會員之ヲ代理ス

第四十一條 府縣會ハ每通常會ニ於テ名譽職參事會員ノ補充員ハ八名又ハ四名ヲ互撰シ其名譽職參事會員ノ闕員アルトキハ府縣知事ニ於テ補充員中投票多數ノ順次ニ依リ之ヲ補充スヘシ但其既ニ補充シタル者ハ前任者ノ任期中在職スルモノトス

第四十二條 名譽職參事會員ノ任期ハ議會ノ任期ニ從フ但任期限ノ後ト雖後任者就職ノ日マテ在職スルモノトス

名譽職參事會員ハ補充員ヲ以テ其闕員ヲ補充シ仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ二箇月以内ニ臨時選舉ヲ行フヘシ

第四十三條 府縣參事會ノ職務權限ハ左ノ如シ

- 一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
 - 二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急務ヲ要シ府縣知事ニ於テ府縣會ニ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ府縣會ニ代テ議決ヲ爲ス事
 - 三 府縣會ノ定メタル方法ノ範圍内ニ於テ府縣有財産ノ管理又ハ營造物ノ維持ニ關シ必要ナル事件ニ付決議ヲ爲ス事
 - 四 府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ノ次第順序其他必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事
 - 五 府縣知事其他官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ述ブル事
 - 六 府縣知事ヨリ發スル府縣會議案ニ付府縣知事ニ意見ヲ述ヘ及會議ヲ報告スル事
 - 七 臨時必要アルトキ府縣ノ出納ヲ検査スル事
- 其他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事務ヲ處理ス
- 第四十四條 府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス
會員半數以上ノ請求アルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ招集スヘシ
- 第四十五條 府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サズ
- 第四十六條 府縣參事會ハ議長又ハ其代理者及名譽職會員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス但第四十三條第二ノ議決ヲ爲ストキハ高等

官曾員ハ其議決ニ加ハサルモノトス

- 府縣參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ
- 第四十七條 府縣參事會員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付府縣參事會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス
- 前項規定ノ爲出席ノ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其人數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ該事件ニ關係ナキ者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ名譽職參事會ノ不足ヲ補充シテ第三十八條ノ定數ニ滿タシムヘシ
- 第四十八條 市制町村制ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府縣以上ノ郡市町村ニ交渉スルモノアルトキハ其府縣知事ノ具狀ニ依リ內務大臣ニ於テ其事件ヲ管轄スヘキ府縣參事會ヲ指定スヘシ
- 第四十九條 東京府京都府大阪府參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ東京市京都市大阪市ニ關スルモノハ其郡部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス其東京市京都市大阪市外ノ市町村若ハ郡ニ關スルモノハ市部名譽職參事會員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス
- 此法律中東京府京都府大阪府會ノ市部名譽職參事會員トアルハ郡部議員ニ於テ撰

舉シタル名譽職參事會員ヲ云ヒ郡部名譽職參事會員トアルハ郡部議員ニ於テ撰舉シタル名譽職參事會員ヲ云フ

第五十條 府縣知事ハ府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ施行シ及府縣有財産及營造物ヲ管理シ並ニ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ヲ執行ス

府縣ニ於テ他人ニ對シ義務ヲ負擔スヘキ證書及委任狀ニハ知事ノ外名譽職參事會員二名以上之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ文書中府縣會又ハ參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ其議決ヲ經タルモノハ總テ其旨ヲ記入スヘシ

第五十一條 府縣會ニ於テ名譽職參事會員ヲ撰舉セス又ハ參事會成立セス又ハ召集ニ應セサルトキハ參事會成立シ又ハ召集ニ應スル迄府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

非常事變ニ際シ府縣參事會ヲ召集スルノ暇ナク又ハ名譽職參事會員ノ出席半數以上ニ至ラサルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次回ノ府縣會會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第五十二條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ニ依リ府縣ノ費用ヲ以テ府縣有財産又ハ營造物ノ管理若ハ土木工事ニ必要ナル有給ノ府縣吏員ヲ置クヲ得但府縣吏員ハ府縣

知事ニ於テ之ヲ任免監督ス

府縣吏員ノ給料手當退隱料等ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル其身元保證金ヲ要スルトキ其金額ヲ定ムルモ亦同シ

第五十三條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置キ府縣事務ノ一部ヲ調査セシメ又ハ府縣有財産及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得其撰舉又ハ撰任ノ方法及任期ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル委員ハ名譽職トス

第四章 府縣ノ會計

第五十四條 府縣有財産及營造物管理ノ費用府縣會府縣參事會及委員ノ費用府縣委員ノ給料退隱料其他諸給與及從來法律命令若ハ慣例ニ依リ并ニ將來法律勅令ニ依リ府縣ノ負擔ト定ムル事件ノ費用ハ府縣ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第五十五條 名譽職參事會員及委員ニハ旅費滞在手當及出務日當ヲ給スルコトヲ得府縣會議員ニハ旅費及滞在手當ニ限リ之ヲ給スルコトヲ得但滞在手當出務日當ヲ併セ一日一圓五十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十六條 府縣ノ支出ハ府縣稅其他府縣ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第五十七條 府縣稅目及其賦課徵收方法ニ關スル規定ハ此法律ニ依リ變更シタルモノヲ除クノ外從前地方稅ニ關スル規定ニ依ル

第五十八條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ニ依リ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ其府縣ノ全部若ハ市制施行ノ地ニ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得但家屋稅賦課ノ地ニ於テハ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得ス

第五十九條 府縣内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ店舗ヲ定メテ營業ヲ爲ス者ハ其土地家屋營業ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

第六十條 府縣稅ノ賦課ニ付テハ納稅者カ其府縣外ニ於テ店舗ヲ定メタル營業ノ收入ヲ其標準ニ算入スルコトヲ得ス

第六十一條 府縣會ハ各市町村内ニ於テ徵收スル府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ヲ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

第六十二條 營業ノ狀況又ハ收入ヲ標準トシテ賦課スル府縣稅ニ付テハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ賦課額調査ノ爲其府縣内郡市ニ調査委員ヲ置クコトヲ得

第六十三條 府縣稅ノ免除ハ市町村稅免除ノ規定ニ依ル

第六十四條 府縣會ハ府縣内郡市町村ノ土木工事又ハ府縣内ノ教育衛生勸業及慈善ノ事業若ハ營造物ニ對シ補助金ヲ與フルコトヲ議決スルコトヲ得

第六十五條 府縣會ハ家屋稅又ハ戶數割ノ全部又ハ一部ノ代納トシテ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニ對シ夫役又ハ現品ヲ出スヲ許スコトヲ議決スルコトヲ得

第六十六條 府縣會ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但日割ヲ以テ徵收スルモノハ此限ニ在ラス

第六十七條 府縣稅ノ前納ニ係ルモノハ其義務ノ消滅シ又ハ他人ニ移轉シタル場合ト雖之ヲ納付セス但其義務ノ移轉ヲ受ケタル者ハ其前納期限ノ終迄納稅セサルモノトス

第六十八條 府縣稅ノ賦課ニ對シ錯誤アルコトヲ發見シタル者ハ徵稅傳令書ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ其傳令書ヲ發シタル廳ニ申立ルコトヲ得但申立ノ爲其納稅ヲ

府縣稅ノ前納ニ係ルモノハ其義務ノ消滅シ又ハ他人ニ移轉シタル場合ト雖之ヲ納付セス但其義務ノ移轉ヲ受ケタル者ハ其前納期限ノ終迄納稅セサルモノトス

第六十七條 府縣稅ノ法律命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケルモノヲ除ク外各市町村長ニ於テ市町村稅徵收ノ手續ニ依リ之ヲ徵收スヘシ

第六十八條 府縣稅ノ賦課ニ對シ錯誤アルコトヲ發見シタル者ハ徵稅傳令書ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ其傳令書ヲ發シタル廳ニ申立ルコトヲ得但申立ノ爲其納稅ヲ

拒ムコトヲ得ス
 第六十九條 前條ノ申立ヲ爲シタル後二十一日以内ニ其更正ヲ得サルハ其更正ヲ得ルモ之ニ不服ナルトキハ十四日以内ニ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服ナキハ其裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナルハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但市ニ在テハ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十條 府縣稅ノ免稅若ハ納稅延期ノ特別ノ事情アルモノニ限リ府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得

府縣稅ノ滯納處分ハ國稅滯納處分法ニ依ル
 第七十一條 東京府京都府大阪府ニ在テハ府ノ支出ニ充ツヘキ府稅ヲ市部及郡部ニ分賦ス其分賦ノ割合ハ府會ニ於テ之ヲ議決シ內務大臣ノ認可ヲ受ケテ施行スヘシ前項支部ノ分賦額ハ市ニ於テ之ヲ市ノ豫算ニ編入シ市稅トシテ徵收シ其總額ヲ賦金庫ニ納ムヘシ郡部ノ分賦額ハ此法律ノ規定ニ依リ之ヲ徵收ス但市部議員ハ其徵收ニ關スル議事ニ參與シ及議決ニ加ハラサルモノトス此場合ニ於テ若議長副議長市部議員トナルトキハ郡部議員ニ於テ臨時議長ニ互撰スヘシ
 第七十二條 市制施行ノ府縣ニ在テハ郡廳舍建築繕修費郡吏員給料旅費及廳費ハ市

ヲ除其他ノ部分ノミチシテ其負擔ニ任セシムヘシ
 前項府縣ニ在テハ其府縣ノ支出費自中市ト其ノ他ノ部分ト利害ノ厚薄ヲ異ニシ均一ノ負擔ニ任セシムルコトヲ得サルモノアルトキハ其費目ニ限リ其一方ノ負擔ヲ增加スルコトヲ得但負擔ノ割合ハ府縣會ニ於テ之ヲ議決シ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ確定ス
 第一項ノ負擔ニ任セシメ及第二項ニ依リ一方ノ負擔ヲ增加スルハ賦課ノ稅率ヲ增加スルニ止メ其會計ヲ異ニスルコトヲ得ス但東京府京都府大阪府ニ在テハ前條ニ依ル

前項ニ依リ稅率ヲ增加スヘキ稅目ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル
 第七十三條 府縣内ノ或ル部分ニ對シ特ニ利益アル土木事業ヲ起ストキハ府縣會ノ議決ニ依リ該部分ニ對シ通常府縣稅賦課ノ外其利益ノ厚薄ニ應シ特ニ夫役現品ヲ增課スルコトヲ得

第七十四條 府縣ハ其舊債元額償還スル爲メ又ハ天災事變ノ爲已ムヲ得サル支出又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ增加スルトキハ府縣ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ府縣會ノ議決ヲ以テ府縣債ヲ起スコトヲ得
 府縣債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併セテ負債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定

ムヘシ府縣債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起償ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スヘシ
歳入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノハ本條ノ例ニ依ルノ限ニ在ラス但府縣參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第七十五條 府縣知事ハ毎年其翌年度ニ係ル歳入出豫算ヲ調製スヘシ但府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ハ府縣會ノ議決ニ付スルノ前府縣參事會ノ審査ニ付スヘシ若府縣知事ト府縣參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ知事ハ參事會ノ意見ヲ豫算ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ニ付テモ亦同

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ニ關スル規定ヲ設ケルコトヲ得

第七十六條 豫算ハ毎年府縣會ノ議決ヲ取り之ヲ内務大臣ニ報告シ並ニ府縣ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ議決シタル場合ニ於テモ亦同シ

府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ以テ其年期间各年度ノ支出額ヲ定メ

一 繼續費ト爲スコトヲ得

豫算ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣知事ハ併セテ其府縣有財産表ヲ提出スヘシ

第七十七條 歳入出豫算中ニ豫備費ヲ設クヘシ豫備費ハ府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ議決ヲ經テ已ムテ得サル豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得ス府縣會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第七十八條 府縣ノ收支命令ハ府縣知事之ヲ發スヘシ

第七十九條 會計事務ヲ管理スル官吏ハ前條ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス及其命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第八十條 決算ハ會計事務ヲ管理フル官吏ニ於テ會計年度後三箇月以内ニ之ヲ府縣知事ニ提出シ府縣知事ハ府縣參事會ヲシテ之ヲ検査セシメ次回ノ通常府縣會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書並ニ之ニ關スル府縣會ノ議決ハ府縣知事ヨリ之ヲ内務大臣ニ報告シ並ニ決算ハ府縣ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ

第五章 監督

第八十一條 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第八十二條 府縣ノ行政ニ關スル訴願ハ其事件ノ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリニ

十一日以内ニ其理由ヲ具シテ内務大臣ニ提出スヘシ

此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事ノ處分又ハ府縣會參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴スヘシ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第八十三條 内務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯乱澁滯セサルヤ否ヲ監視スヘシ内務大臣ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ并ニ實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第八十四條 府縣會又ハ府縣參事會ノ議決公益ヲ害スト認ムルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ直ニ内務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

府縣會又ハ府縣參事會ノ議決其權限ヲ超ユ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ其議決ヲ取消スヘシ此場合ニ於テ府縣知事ノ處分ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十五條 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ法律命令又ハ慣行ニ依テ府縣ノ負擔ニ屬スル行政上又ハ公益上必要ノ費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキ

ハ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但内務大臣ハ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第八十六條 府縣會招集ニ應セス又ハ成立セザルトキハ府縣知事ハ内務大臣ノ指揮ヲ請ヒ處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第八十七條 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ其議決スヘキ議案ヲ議決セス又ハ府縣會ニ於テ招集前正當ノ手續ヲ以テ告知セラレタル議案ヲ第二十一條第一項ニ定メタル期限内ニ議了セサル場合ニ於テ其事緊急ヲ要スルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但其議決セス又ハ議了セサル議案歲入出豫算ニ係リ内務大臣ニ於テ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第八十八條 内務大臣ハ府縣ノ歲入出豫算中不適當ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除シ及其府縣ノ資力ニ比シ不急ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除若ハ減殺スルコトヲ得

但此場合ニ於テハ收入科目中ニ就キ之ヲ相當スル收入額ヲ減殺スヘシ

第八十九條 府縣會ノ解散ハ勅令ヲ以テス此場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ改撰

スヘシ

前項解散ノ場合ニ於テハ名譽職參事員モ亦解職スルモノトス
府縣會解散ノ後改撰結了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣知事ハ專
決處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第九十條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコ
トヲ要ス

- 一 新ニ府縣債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ若ハ償還ノ方法ヲ變更スル事
- 二 地租四分ノ一ヲ超過スル府縣稅ヲ土地ニ賦課スル事
- 三 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第九十一條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 府縣有不動產ノ賣却讓渡並ニ買入書入ノ事
- 二 第七十二條第二項ニ依リ市若ハ其他ノ部分ノ負擔ヲ増加スル事
- 三 第七十三條ニ依リ府縣會ノ或ル部分ニ對シ特ニ夫役現品ヲ増額スル事
- 四 第七十六條第二項ニ依リ繼續費ヲ定メ及其年期内ニ議決ヲ變更スル事

第六章 附則

第九十二條 行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間此法律ニ依リ行政裁判所ニ屬スル職務ハ

現行ノ行政裁判手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ之ヲ行フヘシ

第九十三條 市制町村制施行ノ爲定ムル直接稅ノ種類ハ此法律ノ施行ニ付テモ亦之
ヲ適用ス

市制町村制郡制及此法律施行ノ爲將來ノ諸稅ニ付直接稅ト爲スヘキモノハ内務大
臣及大藏大臣之ヲ告示スヘシ

第九十四條 此法律ハ郡制市制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス其既行ノ時
期ハ府縣事知ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第九十五條 此法律施行ノ後ハ市制第百二十二條第三ニ定ムル附加稅徵收ノ許可ハ
東京市京都市大阪市ニ在テハ地租七分ノ三、二五(二十八分ノ十三)其他ノ市ニ在
テハ其七分ノ一、五(十四分ノ三)ヲ超過スルトキハ之ヲ要スルモノトス

第九十六條 府縣内ニ在ル島嶼ノ其本地ニ對スル關係ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設
ク

郡制ヲ施行セサル島嶼ヨリ撰出スヘキ府縣會議員ノ撰舉ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以
テ其制ヲ定ム

第九十七條 明治十三年四月第十五號布告府縣會規則明治十四年二月第八號布告區
郡部會規則明治二十二年二月法律第六號府縣會議員撰舉規則其他此法律ニ牴觸ス
ル成規ハ此法律施行ノ府縣ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第九十八條 內務大臣ハ此法律ノ施行ノ責ニ任シ之カ爲必要ナル命令ヲ發布スヘシ
朕郡制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月十七日

內閣總理大臣
兼 內務大臣

伯爵 山縣 有朋

○法律第三十六號

郡制

第一章 總則

第一條 郡ノ廢置分合及郡界ノ變更ハ法律ヲ以テ定ム

郡界ニ當ル市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ境界モ亦自ラ變更スルモノトス

第二條 郡内ノ町村ヲ變シテ市ト爲シ若ハ市ヲ變シテ郡内ノ町村ト爲スハ其市會町
村會ノ申請ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

第三條 第一條第二條ノ處分ニ付其財産處分ヲ要スルトキハ府縣參事會之ヲ議決ス
ヘシ但特ニ法律ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第二章 郡會

第四條 郡會ノ郡内町村ニ於テ選舉シタル議員及大地主ニ於テ選舉シタル議員ヲ以

テ之ヲ組織ス

第五條 町村ニ於テ選舉スヘキ郡會議員ノ數ハ每町村各一名トス
郡會議員ノ數二十名以上ニ及フトキハ二十名ヲ以テ制限トス此場合ニ於テ議員配
當法ハ首トシテ人口ヲ標準トシ郡會ニ於テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ
郡會議員ノ數十名ニ滿タサルトキハ郡會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經其數ヲ
増シテ十名ニ至ルコトヲ得其配當法ハ首トシテ人口ヲ標準トシ郡會ニ於テ議決シ
府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

本條議員配當法ハ郡内ノ町村數ニ増減アリタル場合ノ外初回ハ三年間爾後ハ十二
年以上ニ至リ町村ノ人口ニ著シキ増減アルニ非サレハ改正セサルモノトス

議員配當法ヲ改正スルトキハ議員全數ヲ改撰スヘシ

第六條 一町村ニ於テ一名以上ノ議員ヲ選舉スルハ其村會之ヲ行ヒ數町村ニ於テ一
名若ハ一名以上ノ議員ヲ選舉スル其各町村會々同シ之ヲ行フヘシ

第七條 町村組合ニシテ組合會ヲ設ケ其町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ第四
條乃至第六條ノ規定ニ關シテハ之ヲ一町村ト同視シ其組合會ニ於テ議員選舉ヲ行
フヘシ

第八條 大地主ハ町村ニ於テ選舉スヘキ議員定數ノ外其定數三分ノ一互選スルモノ
トス若端數ヲ生スルトキハ之ヲ棄却スヘシ

選舉ヲ行フコトヲ得ヘキ大地主ニシテ其員數町村ニ於テ選舉スヘキ議員定數ノ三分ノ一以下ナルトキハ其大地主ハ選舉ニ依ラスシテ郡會議員タルモノトス但定期改撰ノ期限内ニ於テハ大地主ノ員數減シテ三分ノ一以下ニ至ルト雖解散ノ爲改撰スル場合ヲ院クノ外ハ本項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第九條 大地主トハ郡内ニ於テ町村税ノ賦課ヲ受クル所有地ニシテ地價總計壹萬圓以上ヲ有スル地主ヲ云フ

第十條 郡内町村公民ニシテ町村會ノ選舉ニ參與スルコトヲ得ヘキ者及大地主中自ラ選舉ニ加ハルコトヲ得ヘキ者ハ總テ郡會ノ被選舉權ヲ有ス

住居ヲ移シタル爲町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同郡内ニ在リ且他ノ要件ヲ失ハサル井ハ仍郡會ノ被選舉權ヲ有ス

左ニ揚クル者ハ選舉ニ係ルト否トヲ問ハス郡會議員タルコトヲ得ス

一 所屬府 東京府ハ警 縣並ニ其郡ノ官吏

二 其郡ノ有給吏員

三 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師

四 小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選ニ應シ又ハ第八條二項ノ權利ヲ行ハントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 大地主ニシテ選舉權ヲ有スルハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル男子ニ限ル年齢二十歳未滿ノ者及治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ選舉權ヲ有セザルモノトス
大地主ノ選舉權ハ身代限處分中又ハ租稅滯納處分中又ハ公權ノ剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重輕罪ノ爲裁判上ノ訊問若ハ拘留中ハ之ヲ停止ス
本條ノ規定ハ選舉ニ依ラスシテ郡會議員タル者ニモ適用ス

第十二條 選舉權ヲ有スル大地主ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フコトヲ得陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ代人ヲ以テスルニ非サレハ選舉ヲ行フコトヲ得ス

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ町村制ニ定メタル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ以テ代理ノ證トスヘシ

本條ノ規定ハ第八條第二項ノ權利ヲ行フ場合ニモ適用スルモノトス但其代人ハ郡會ニ被選舉權ヲ有スル者ニシテ郡會議員タラサル者ニ限ル

第十三條 郡會議員ハ名譽職トス

町村ニ於テ選舉シタル議員ノ任期ハ六年トシ每三年其半數ヲ改選ス若其二數二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム

初回ニ於テ解任スヘキ者ハ郡會議長郡會ニ於テ自ラ抽籤シテ之ヲ定ム
大地主ニ於テ選舉シタル議員ノ任期ハ三年トシ每三年其全數ヲ改選ス
解任ノ議員ハ再選セラルコトヲ得

第十四條 議員中議員アルトキハ遅クトモ六箇月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第十五條 郡長ハ郡會議員改撰前撰權アル大地主ノ名簿ヲ製シ之ニ其資格ヲ記載シ其氏名ヲ告示スヘシ

關係者ニ於テ大地主名簿ノ正否ニ關シ異議アルル片ハ告示後二十一日以内ニ郡長ニ申立テ其郡長ノ裁決ニ不服ナル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

大地主名簿ニ登録セラレサル者ハ撰權ニ參與シ及第八條第二項ヨリ郡會議員タルコトヲ得ス

大地主名簿ハ次ノ定期改撰前ニ行フヘキ補闕選舉ニモ亦適用スルモノトシ但大地主ノ資格ヲ失ヒ又ハ撰權ノ要件ヲ失ヒタル者ハ之ヲ削除シ其氏名ヲ告示スヘシ其處分ニ對シ異議アルトキハ本條第二項ノ例ニ依ル

定期改撰ノ期限内新ニ撰權ヲ得又ハ撰權ニ依ラスシテ郡會議員タルノ權利ヲ得タル者ハ解散ノ爲改選スル場合ヲ除ク外期限内ニ於テ其名簿ニ登録セサルモノトス

第十六條 郡會議員ノ撰權ハ郡長ノ告示ニ依リ之ヲ行フヘシ其告示ハ遅クトモ撰權ノ日ヨリ七日前ニ之ヲ發スヘシ

第十七條 選舉ノ順序ハ先ツ町村之ヲ行ヒ次ニ大地主之ヲ行フヘシ

町村ニ於テ行フ選舉ハ町村制第四十六條ノ規定ニ從フヘシ但數町村會同シテ行フ選舉ハ郡長又ハ郡長ノ指定スル町村長ヲ選擇會長トシテ之ヲ行フヘシ

第十八條 大地主ニ於テ選舉ヲ行フトキハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一 郡長ハ遅トモ選舉ノ日ヨリ七日前選舉人ニ招集狀ヲ發シ選舉ノ場所日時ヲ告知スヘシ

二 選舉掛ハ選舉會長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ選任シタル立會人二名若ハ四名及撰權會長ヲ以テ之ヲ組織ス

三 選舉會長ハ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス

四 投票ハ選舉人自ラ選舉會長ノ面前ニ於テ之ヲ投票函ニ投入ス投票ハ匿名トス

五 左ノ投票ハ無効トス

一 記載セル人名ノ讀ミ難キモノ
二 被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
三 被選權ナキ人名ヲ記載スルモノ
四 被選人氏名ノ外他ノ文字ヲ記入スルモノ但爵位職業身分住所又ハ敬稱ハ

此限ニ在ラス

本項一ヨリ三ニ至ルノ場合ニ於テ票中他ニ列記ノ被選人ニ付テハ仍其效アリトス

投票ノ受理並ニ効力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉會長之ヲ決ス

六 有効投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當撰トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取リ年齡相同キトキハ選舉會長自ラ抽籤シテ其當撰ヲ定ム

七 選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記録シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シテ署名スヘシ

八 投票ハ選舉ノ効力確定スル迄之ヲ保存スヘシ

第十九條 選舉ヲ終リ當撰人定マリタルトキハ町村會ニ於テ行フ選舉ニ在テハ町村長數町村會同シテ行フ選舉及大地主ニ於テ行フ選舉ニ在テハ選舉會長直ニ當撰人ニ通知シ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

當撰人當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其當撰ヲ承諾スルヤ否ヤ郡長ニ届出ヘシ

一人ニシテ數箇所ノ議員ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコト及選舉ニ依ラズモテ郡會議員タルヘキ大地主ニシテ町村ノ選舉ニ當撰シタルトキ

ハ其選舉ニ應スルコト又ハ應セサルコトヲ同期限内ニ郡長ニ届出ヘシ

前二項ノ届出ヲ其期限内ニ爲サルトキハ選舉ヲ辭スル者ト視做スヘシ

町村ノ選舉ニ應スル大地主ハ第八條第二項ノ權利ヲ有スル者ト雖ニ重ニ其權ヲ行フコトヲ得サルモノトス

第二十條 議員ノ當撰ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲ササル者アルトキハ郡長ハ七日以内ニ更ニ選舉ヲ行ヒ又ハ町村長ニ命ジテ選舉ヲ行ハシムヘシ

第二十一條 當撰人確定シタルトキハ郡長ハ直ニ當撰證書ヲ付與シ及管内ニ告示スヘシ

第二十二條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得

第二十三條 當選人其當撰ノ際資格ノ要件ヲ有セザリシコト發覺スルトキハ其當撰ハ無効トス

當撰人當選後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員ノ職ヲ失フモノトス

第二十四條 郡會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハ其議決ヲ以テ之ニ郡長ニ通知スヘシ

第二十五條 郡會議員被撰權ノ有無及選舉ノ効力ハ郡參事會之ヲ裁決ス

郡參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服ナ

ル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條 郡會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一 郡ノ歳入出豫算ヲ定ムル事

二 決算報告ヲ認定スル事

三 郡有不動産ノ賣買交換讓渡讓受並ニ質入書入ノ事

四 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

五 郡有財産ノ管理及營造物ノ維持方法ヲ定ムル事

其他法律命令ニ依リ郡會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス

第二十七條 郡會ハ其權限ニ屬スル事件ヲ郡參事會ニ委任スルコトヲ得

第二十八條 郡會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

郡會ハ其郡ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付郡長又ハ府縣知事ニ建議スルコトヲ得

第二十九條 郡會議員ハ撰舉人ノ指示若ハ委嘱ヲ受クヘカヲサルモノトス

第三十條 郡會ハ郡長ヲ以テ議長トス

郡會ハ改撰後ノ初會ニ於テ議長代理者一名ヲ互撰スヘシ
議長及議長代理者共ニ故障アルトキハ臨時議長代理ヲ互撰スヘシ

第三十一條 郡長若ハ特ニ郡長ノ委任ヲ受ケタル郡吏員ハ郡會ノ議事ニ參與スルコトヲ得議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ何時テモ之ヲ許スヘシ

第三十二條 郡會ハ毎年一回通常會ヲ開クヘシ其他必要アルトキハ其事件ニ限リ臨時會ヲ開クコトヲ得

郡會ハ郡長之ヲ招集ス若議員三分ノ一以上ニ於テ臨時ノ招集ヲ請求スルトキハ之ヲ召集スヘシ召集ハ開會ノ日ヨリ十四日前迄ニ告示スヘシ但急施ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

郡會ハ郡長之ヲ開閉ス

第三十三條 郡會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付開會二回ニ至ルモ議員猶其半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 郡會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ郡會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

第三十六條 郡會ニ於テ撰舉ヲ行フトキハ第十八條四ヨリ六ニ至ル規定ニ依ルヘシ

第三十七條 郡會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合ハ此限ニ在ラス

一 郡長ヨリ傍聴禁止ノ要求ヲ受ケタミトキ

二 議長又ハ議員三名以上ノ發議ニ由リ傍聴禁止ヲ可決シタルトキ議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ用キスシテ其可否ヲ決スヘシ

第三十八條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其日ノ會議ヲ開閉シ並ニ延會シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第三十九條 議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第四十條 會議中此法律若ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムヘシ若對抗ニ涉ル者アルトキハ警官ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第四十一條 會議ノ傍聴人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其他議事ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警官ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聴席騷擾ナルルハ議長ハ總テノ傍聴人ヲ退場セシムルコトヲ得

第四十二條 郡長若ハ特ニ其委任ヲ受ケタル吏員及議員ハ議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議

場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第四十三條 郡會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム

書記ハ議長之ヲ撰任ス但郡吏員ヲシテ之ヲ兼子シムルコトヲ得

第四十四條 郡會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ議決及選舉ノ顛末並ニ出席議員ノ氏名ヲ記録セシムヘシ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其議員ハ會議ノ前郡會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録中ニ其氏名ヲ記載シ置クヘシ

第四十五條 郡會ハ議事規則及傍聴人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ認可ヲ受ケテ之ヲ施行スヘシ

第三章 郡參事會吏員及委員

第四十六條 郡ニ郡參事會ヲ置キ郡長及名譽職參事會會員四名ヲ以テ之ヲ組織ス

名譽職參事會員中三名ハ郡會ニ於テ其會員中ヨリ互撰シ一名ハ府縣知事ニ於テ郡會議員若ハ郡内町村ノ公民中ヨリ撰任スヘシ

第四十七條 郡參事會ハ郡長ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ會員ニ於テ臨時議長代理ヲ互撰スヘシ

第四十八條 郡會ハ每通常會ニ於テ郡會ノ互選シタル名譽職參事會會員ノ補充員三名ヲ互撰シ其名譽職參事會會員ノ闕員アルトキハ郡長ニ於テ補充員中投票多數ノ順次ニ依リ之ヲ補充スヘシ但其既ニ補充シタル者ハ前任者ノ任期中在職スルモノトス

第四十九條 名譽職參事會員ノ任期ハ議員ノ任期ニ從フ但任期限滿ノ後ト雖モ後任者就職ノ日マテ在職スルモノトス 郡會ノ互選シタル名譽職參事會員ハ補充員ヲ以テ其闕員ヲ補充シ仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ二箇月以内ニ臨時其撰舉ヲ行フヘシ

第五十條 郡參事會ノ職務權限左ノ如シ

- 一 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
 - 二 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ郡會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ郡會ニ代テ議決ヲ爲ス事
 - 三 郡會ノ定メタル方法ノ範圍内ニ於テ郡有財産ノ管理又ハ營造物ノ維持ニ關シ必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事
 - 四 郡ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ノ次第順序其他必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事
 - 五 郡長其他官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フル事
 - 六 郡長ヨリ發スル郡會議案ニ付郡長ニ意見ヲ述ヘ及會議ニ報告スル事
 - 七 臨時必要アルトキ郡ノ出納ヲ檢査スル事
- 其他法律命令ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事務ヲ處理ス
- 第五十一條 郡參事會ハ郡長之ヲ招集ス
- 會員半數以上ノ請求アルトキハ郡長ハ郡參事會ヲ招集スヘシ

第五十二條 郡參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第五十三條 郡參事會ハ郡長又ハ其代理者及會員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス 郡參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第五十四條 郡參事會員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付郡參事會ノ議事ニ參與シ議決ニ加ハルコトヲ得ス 前項ノ規定ノ爲出席ノ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ郡長ハ補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其數ヲ得サルトキハ郡會議員ニシテ該事件ニ關係ナキ者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ名譽職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第四十六條ノ定數ニ滿

タシムヘシ 第五十五條 町村制ノ規定ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二郡以上ノ郡村ニ交渉スルモノアルトキハ其郡長ノ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其事件ヲ管理ス

ヘキ郡參事會ヲ指定スヘシ二府縣以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ之ヲ指定スヘシ

第五十六條 郡長ハ郡會及郡參事會ノ議決ニ施行シ及郡有ノ財産及營造物ヲ管理シ並ニ郡ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ヲ執行ス

郡ニ於テ他人ニ對シ義務ヲ負擔スヘキ證書及委任狀ニハ郡長ノ外名譽職參事會員
二名以上之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ文書中郡會又ハ參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其議決ヲ經タルモノハ其
旨ヲ記入スヘシ

第五十七條 郡會ニ於テ名譽職參事會員ヲ選舉セス又ハ參事會成立セス又ハ招集ニ
應セサルトキハ參事會成立シ又ハ招集ニ應ムル迄郡長郡參事會ノ權限ニ屬スル事
件ヲ專決處分スルコトヲ得

非常事變ニ際シ郡參事會ヲ招集スルノ暇ナク又ハ名譽職參事會員ノ出席半數以上
ニ至ラザルトキハ郡長ハ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得
本條ノ處分ハ次回ノ郡會々議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第五十八條 郡ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ノ外郡會ノ議決ニ依リ郡ノ費用ヲ以
テ郡有財產又ハ營造物ノ管理若ハ土木工事ニ必要ナル有給郡吏員ヲ置クコトヲ得
但其郡吏員他ノ郡吏ニ準シ府縣知事ニ於テ之ヲ任免監督ス

前項郡吏員給料手當退隱料等ハ郡會ノ議決スル所ニ依ル其身元保證金ヲ要スルト
キ其金額ヲ定ムルモ亦同シ

第五十九條 郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置キ郡事務ノ一部ヲ調
査セシメ又ハ郡有財產及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得

委員ハ郡會ニ於テ之ヲ選舉ス其選舉ノ方法及任期ハ郡會ノ議決スル所ニ依ル委員
ハ名譽職トス

第四章 郡ノ會計

第六十條 郡有財產及營造物管理ノ費用郡會郡參事會及委員ノ費用第五十八條ノ郡
吏員ノ給料退隱料其他諸給與及法律勅令ニ依リ郡ノ負擔ト定ムル事件ノ費用ハ其
郡ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第六十一條 郡會議員名譽職參事會員及委員ニハ旅費及日當ヲ給スルコトヲ得但日
當ハ一日五十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第六十二條 郡ノ支出ニ充ツル費用ハ郡有財產ヨリ生スル收入其他雜收入ヲ以テ充
ツルモノ、外ハ郡内各町村ニ於テ分賦ス各町村分賦ノ割合ハ各町村前年度ノ直接
國稅縣稅ノ徵收額ニ據ル

各町村分賦ノ額ハ各町村ニ於テ之ヲ町村ノ豫算ニ編入シ町村稅トシテ徵收シ其總
額ヲ郡金庫ニ納ムヘシ

第六十三條 郡内ノ或ル部分ニ對シ特ニ利益アル土木事業ヲ起ストキハ郡會ノ議決
ニ依リ該部分ノ町村ニ對シ通常分賦額ノ外ハ其利益ノ厚薄ニ應シ特ニ夫役現品ヲ
増課スルコトヲ得

第六十四條 郡ハ天災事變ノ爲已ムヲ得サル支出又ハ其郡ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ

支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ郡内町村ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ郡會ノ議決ヲ以テ郡債ヲ起スコトヲ得
郡債ヲ起スノ議決ヲ爲スコトキハ併セテ起債ノ方法利息ヲ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ

郡債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スヘシ

歳入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノハ木條ノ例ニ依ルノ限ニ在ラス但參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第六十五條 郡長ハ毎年其翌年度ニ係ル歳入出豫算ヲ調製スヘシ但郡ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ハ郡會ノ議決ニ付スルノ前郡參事會ノ審査ニ付スヘシ若郡長ト郡參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ郡長ハ參事會ノ意見ヲ豫算ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ニ付テモ亦同シ
内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條 豫算ハ毎年郡會ノ議決ヲ取り之ヲ府縣知事ニ報告シ並ニ郡慣行ノ公告

式ニ依リ其要領ニ告示スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ議決シタル場合ニ於テモ亦同

郡ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支辨スヘキモノハ郡會ノ議決ヲ以テ其年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續ト爲スコトヲ得

豫算ヲ郡會ニ提出スルトキハ郡長ハ併セテ其郡有財產表ヲ提出スヘシ

第六十七條 歳入出豫算中ニ豫算ヲ設クヘシ豫備費ハ郡長ニ於テ郡參事會ノ議決ヲ經テ已ムヲ得サル豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得但郡會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第六十八條 郡ノ收支命令ハ郡長之ヲ發スヘシ

第六十九條 會計事務ヲ管理スル郡役所會計吏ハ前條ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス及其命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第七十條 郡ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ檢査シ及毎年少クトモ一回臨時檢査ヲ爲スヘシ檢査ハ郡長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時檢査ニハ郡參事會員一名以上ノ立會ヲ要ス

第七十一條 決算ハ會計事務ノ管理スル郡役所會計吏ニ於テ會計年度後三箇月以内

ニ之ヲ郡長ニ提出シ郡長ハ郡參事會員ヲシテ之ヲ検査セシメ次回ノ通常郡會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書並ニ之ニ關スル郡會ノ議決ハ郡長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告シ並ニ決算ハ郡慣行公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ

第五章 監督

第七十二條 郡ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第七十三條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外外部ノ行政ニ關スル府縣知事又ハ府縣參事會ノ處分若ハ裁決ニ不服ナル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

郡ノ行政ニ關スル訴願ハ其事件ノ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出スヘシ

此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事ノ處分又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ廿一日以内ニ出訴スヘシ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第七十四條 監督官廳ハ郡行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯乱澁滯セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲メ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並ニ實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有

ス

第七十五條 郡會又ハ郡參事會ノ議決其權限ヲ超エ法律命令ニ背キ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ

議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ尙其議決ヲ更メタルトキハ直ニ府縣知事ノ裁決ヲ請フヘシ其權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣知事ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十六條 郡會又ハ郡參事會ニ於テ法律命令又ハ慣行ニ依テ郡ノ負擔ニ屬スル行政上又ハ公益上必要ノ費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ郡長

ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但府縣知事ハ原案金額ノ不相當ト認ムルトキハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第七十七條 郡會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ郡長ハ府縣知事ノ指揮ヲ請ヒ處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第七十八條 郡會又ハ郡參事會ニ於テ其議決スヘキ議案ヲ議決セサル場合ニ於テ其事緊急ヲ要スルトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但其議決セサル議案歳入出豫算ニ依リ府縣知事ニ於テ原案金額ヲ不相當ト認ムル片ハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第七十九條 府縣知事ハ郡ノ歲入出豫算中不適當ノ支出ト認ムル費目アルハ之ヲ
 削除シ及其郡ノ資力ニ比シ不當ノ支出ト認ムル費目アルハ之ヲ削除若ハ減殺ス
 ルコトヲ得此場合ニ於テハ收入科目中ニ就キ之ニ相當スル收入額ヲ減殺スヘシ
 第八十條 郡會ハ内大務臣之ヲ解散セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ三箇月以内ニ
 議員ヲ改撰スヘシ
 前項解散ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦解職スルモノトス
 郡委員ハ郡會ノ解散ニ依リ解職スルノ限ニ在ラス但改撰郡會ノ議決ヲ以テ之ヲ改
 撰スルコトヲ得
 郡會解散ノ後改撰終了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ郡長之ヲ專決處
 分スルコトヲ得

前項處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第八十一條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコ
 トヲ要ス

- 一 新ニ郡債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ若ハ償還方法ヲ變更スル事
- 第八十二條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 一 郡有不動産ノ賣却讓渡並ニ質入書入ノ事
- 二 第六十三條ニ依リ郡内ノ或ル部分ニ對シ特ニ夫役現品ヲ増課スル事

三 第六十六條第二項ニ依リ繼續費ヲ定メ及其年期内ニ議決ヲ變更スル事

第六章 附則

第八十三條 郡内總町村ノ共有ニ屬スル財産及營造物ハ郡内總町村ノ聯合又ハ組合
 ナリテ設立セル小學校ヲ除クノ外此法律施行ノ日ヨリ郡ノ所有ニ歸シ其權利義務
 トモ同時ニ郡ニ移ルモノトス

第八十四條 府縣參事會及行政裁判ヲ開設スル迄ノ間此法律ニ依リ府縣參事會ニ屬
 スル職務ハ府縣知事、行政裁判所ニ屬スル職務ハ現行ノ行政裁判手續ニ從ヒ控訴
 院ニ於テ之ヲ行フヘシ

第八十五條 嶋司ヲ置ケル島嶼ニ於テハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第八十六條 此法律ニ依リ始メテ議員ヲ撰舉スルニ付郡會及郡參事會ノ職務ハ郡長
 ニ於テ之ヲ行フヘシ

第八十七條 町村制施行ノ爲ニ定ムル直接税ノ種類ハ此法律ノ施行ニ付テモ亦適用
 ス

第八十八條 此法律施行ノ後ハ町村制第二百二十六條第三ニ定ムル附加税徵收ノ許可
 ハ地租七分ノ一、五十四分ノ三ニテ超過スルトキ之ヲ要スルモノトス

第八十九條 此法律ハ町村制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期
 ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第九十條 明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法其他法律ニ抵觸スル成規ハ此法律施行ノ地ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第九十一條 內務大臣ハ此法律施行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令ヲ發布スヘシ

朕地方共同ノ利益ヲ發達セシメ衆庶臣民ノ幸福ヲ增進スルコトヲ欲シ隣保團結ノ舊慣ヲ存重シテ益之ヲ擴張シ更ニ法律ヲ以テ郡市及町村ノ權義ヲ保護スルノ必要ヲ認メ茲ニ市制及町村制ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治廿一年四月十七日 內閣總理大臣

伯爵 伊藤博文

內務大臣 伯爵 山縣有朋

○法律第壹號

町村制

第一章 總則

第一款 町村及其區域

第一條 此法律ハ市制ヲ施行スル地ヲ除キ總テ町村ニ施行スルモノトス

第二條 町村ハ法律上一個人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡町村公共ノ事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス

第三條 凡町村ハ往來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セス

但將來其變更ヲ要スルコトアルトキハ此法律ニ準據ス可ク

第四條 町村ノ廢置分合ヲ要スルトキハ關係アル市町村會及郡參事會ノ意見ヲ聞キ

府縣參事會之ヲ議決シ內務大臣ノ許可ヲ受ク可シ

町村境界ノ變更ヲ要スルトキハ、關係アル町村會及地主ノ意見ヲ聞キ郡參事會之

ヲ議決ス其數郡ニ涉リ若クハ市ノ境界ニ涉ルモノハ府縣參事會之ヲ議決ス

町村ノ資力法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪ヘス又ハ公益上ノ必要アルトキハ關係者

ノ異議ニ拘ハララス町村ヲ合併シ又ハ其境界ヲ變更スルコトアルヘシ

本條ノ處分ニ付具町村ノ財産處分ヲ要スルトキハ併セテ之ヲ議決スヘシ

第五條 町村ノ境界ニ關スル爭論ハ郡參事會之ヲ裁決ス其數郡ニ涉リ若クハ市ノ境

界ニ涉ルモノハ府縣參事會之ヲ裁決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事

會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルモノハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二款 町村住民及其權利義務

第六條 凡町村内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其町村住民トス

凡町村住民タル者ハ此ノ法律ニ從ヒ公共ノ營造物並町村有財産ヲ共用スルノ權利ヲ有シ及町村ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有スルモノトス

但特ニ民法上ノ權利及義務ヲ有スルモノアルトキハ此限ニ在ラス

第七條 凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來(一)町村ノ住民トナリ
 (二)其町村ノ負擔ヲ分任シ及(三)其町村内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額
 二圓以上ヲ納ムル者ハ其町村公民トス其ノ公賣ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經
 ル者ハ此限ニ在ラス

但場合ニヨリ町村會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二ケ年ノ制限ヲ特免スルコトヲ
 得此法律ニ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受サ
 ル者ヲ云フ

第八條 凡町村公民ハ町村ノ撰舉ニ參與シ町村ノ名譽職ニ撰舉セラレルノ權利アリ
 又其名譽職ヲ擔任スルハ町村公民ノ義務ナリトス
 左ノ理由アルニ非サレハ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス

- 一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者
- 二 營業ノ爲メニ常ニ其町村内ニ居ルコトヲ得サル者
- 三 年齡滿六十以上ノ者
- 四 官職ノ爲メニ町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者
- 五 四年間無給ニシテ町村吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者及六年間町村
 議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ經過セサル者
- 六 其他町村會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若クハ無任期ノ職務ヲ少ク
 モ三年間擔當セス又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ町村會ノ議決ヲ以テ三年以
 上六年以下其町村公民タルノ權ヲ停止シ且同年期間其負擔ス可キ町村費ノ八分一
 乃至四分一ヲ増課スルコトヲ得
 前項町村會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル
 者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴ス
 ルコトヲ得

第九條 町村公民タル者第七條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ其公民タルノ權ヲ
 失フモノトス

町村公民タル者身代限ノ處分中又ハ公權剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲
 ノ裁判上ノ訊問若クハ拘留中又ハ租稅滯納處分中ハ其公民タルノ權ヲ停止ス

陸海軍現役ニ服スル者ハ町村公務ニ參與セサルモノトス
 町村公民タル者ニ限リテ任ス可キ職務ニ在ル者本條ノ場合ニ當ルトキハ其職務ヲ
 解ク可キモノトス

第三款 町村條例

第十條 町村ノ事務及町村住民ノ權利義務ニ間シ此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設
 クルコトヲ許セル事項ハ各町村ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

町村ニ於テハ其町村ノ設置ニ係ル營造物ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得
町村條例及規則ハ法律命令ニ特觸スルコトヲ得ス且之ヲ施行スルトキハ地方慣行
ノ公告式ニヨルハシ

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第十一條 町村會議員ニ其ノ町村ノ選舉人其被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其定員
ハ其町村ノ人口ニ準シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スル
コトヲ得

一 人口千五百未滿ノ町村ニ於テハ

議員八人

一 人口千五百以上五千未滿ノ町村ニ於テハ

議員十二人

一 人口五千以上壹萬未滿ノ町村ニ於テハ

議員十八人

一 人口一萬以上貳萬未滿ノ町村ニ於テハ

議員廿四人

一 人口二萬以上ノ町村ニ於テハ

議員三十人

第十二條 町村公民(第七條)ハ總テ選舉權ヲ有ス但其公民權ヲ停止セララル者(第
八條第三項、第九條第二項)及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス
凡内國人ニシテ公權ヲ有シ直接町村稅ヲ納ムル者其額町村公民ノ最多ク納稅スル
者三名中ノ一人ヨリモ多キトキハ第七條ノ要件ニ當ラスト雖モ選舉權ヲ有ス但公

民權ヲ停止セル、者及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

法律ニ從テ設立シタル會社其他法人ニシテ前項ニ場合ニ當ルトキ亦同シ

第十三條 選舉人ハ分テ二級ト爲ス

選舉人中直接町村稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ半ニ當ル可
キ者ヲ一級トシ爾餘ノ選舉人ヲ二級トス

一級二級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ一級ニ入ル可シ又兩級ノ間ニ同額ノ
納稅者二名以上アルトキハ其町村内ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ一級ニ入ル若
シ住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年數ヲ以テシ年數ニモ依リ難キトキハ町村長抽籤
ヲ以テ之ヲ定ム可シ選舉人每級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉ス其被選人ハ同級内ノ者
ニ限ラス同級ニ通シテ選舉セラル、コトヲ得

第十四條 特別ノ事情アリテ前條ノ例ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ別ニ
選舉ノ特別ヲ設クルコトヲ得

第十五條 選舉權ヲ有スル町村公民(第十二條)第一項ハ總テ被選舉權ヲ有ス
左ニ掲グル者ハ町村會議員タルコトヲ得ス

- 一 所屬府縣郡ノ官吏
- 二 有給ノ町村吏員
- 三 檢察官及警察官吏

四 神官僧侶及其他諸宗教師
五 小學校教員

其他官吏ニシテ當撰シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ
代言人ニ非ラスシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事ヲ辨スルヲ以
テ業ト爲ス者ハ議員ニ撰舉セラル、コトヲ得ス

父子兄弟タルノ縁故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス其同時ニ撰舉セラ
レタルトキハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當撰トシ若シ同數ナレハ年長者ヲ當
撰トス其時ヲ異ニシテ撰舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

町村長若クハ助役トノ間父子兄弟タルノ縁故アル者ハ之ト同時ニ町村會議員タル
コトヲ得ス若シ議員トノ間ニ其縁故アル者町村長若クハ助役ニ撰舉セラレ認可ヲ
受クルトキハ其縁故アル議員ハ其職ヲ退ク可シ

第十六條 議員ハ名譽職トス其任期ハ六年トシ毎三年各級ニ於テ其半數ヲ改撰ス若
シ各級ノ議員二分ニ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解
任スヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
退任ノ議員ハ再撰セラルコトヲ得

第十七條 議員中議員アルトキハ每三年定期改撰ノ時ニ至リ同時ニ補闕選撰ヲ行フ
可シ但シ一定員三分ノ一以上闕員アルトキ又ハ町村會町村長若クハ郡長ニ於テ臨

時補缺ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖モ其補缺撰舉ヲ行フ可シ

補缺議員ハ前任者ノ殘任期在職スルモノトス

定期改選及補缺撰舉トモ前任者ノ撰舉セラレタル撰舉等級ニ從テ之カ選舉ヲ行フ
ヘシ

第十八條 町村長ハ撰舉ヲ行フ毎ニ其撰舉前六十日ヲ限リ撰舉原簿ヲ製シ各撰舉人
ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據リテ撰舉人名簿ヲ製ス可シ

撰舉人名簿ハ七日間町村役場ニ於テ之ヲ關係者ノ從覽ニ供ス可シ若シ關係者ニ於
テ訴願セントスルコトアルトキハ同期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ町村長ハ町
村會ノ裁決(第二十七條第一項)ニ依リ名簿ヲ修正ス可キトキハ撰舉前十日ヲ限リ

テ之ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿トナシ之ニ登録セラレサル者ハ何人タリトモ撰舉ニ
關スルコトヲ得ス

本條ニ因リ確定シタル名簿ハ當撰ヲ辭シ若クハ撰舉ノ無効トナリタル場合ニ於テ
更ニ撰舉ヲ爲ストキモ亦之ヲ適用ス

第十九條 撰舉ヲ執行スルトキハ町村長ハ撰舉ノ場所日時ヲ定メ及撰舉ス可キ議員
數ヲ各級ニ分チ撰舉前七日ヲ限リテ之ヲ公告ス可シ

各級ニ於テ撰舉ヲ行フノ順序ハ先ツ二級ノ撰舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ撰舉ヲ行フ可シ
第二十條 撰舉掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ撰舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ

撰舉ニ町村長若クハ其代理者ハ其掛長トナリ撰舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス
第二十一條 撰舉開會中ハ撰舉人ノ外何人タリトモ撰舉會場ニ入ルコトヲ得ス撰舉
人ハ撰舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 撰舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上撰
舉人自ラ掛長ニ差出ス可シ但選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス
撰舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ撰舉人名簿ニ
照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ノ終ル迄之ヲ開クコ
トヲ得ス

第二十三條 投票ニ記載ノ人員其撰舉ス可キ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ヲ無
効トセス其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却ス可シ
左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ
 - 二 被撰舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
 - 三 被撰舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ
 - 四 被撰舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ
- 投票ノ受理並効力ニ關スル事項ハ撰舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長
之ヲ決ス

第二十四條 撰舉ハ撰舉人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコトヲ許サ
ス

第十二條第二項ニヨリ撰舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ撰舉ヲ行フコトヲ得若シ
其獨立ノ男子ニ非サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代人ヲ以テス可シ其
代人ハ内國人ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲
スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ撰舉掛ニ示シテ代理ノ證トスヘシ

第二十五條 町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ町村會ノ議決ニヨリ
區畫ヲ定メテ撰舉分會ヲ設クルコトヲ得但特ニ二級撰舉人ノミ此分會ヲ設クルモ
妨クナシ分會ノ撰舉掛ハ町村長ノ選任ニヨル代理者ヲ以テ其長トシ第二十條ノ例
ニヨリ掛員二名若クハ四名ヲ撰任ス

撰舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當
撰ヲ定ム撰舉分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開ク可シ其他撰舉ノ手續會場ノ取締等總
テ本會ノ例ニヨル

第二十六條 議員ノ撰舉ハ有效投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當撰トス投票ノ數相同キ
モノハ年長者ヲ取り同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其當撰ヲ定ム
合時ニ補欠員數名ヲ撰舉スルトキハ(第十七條)投票數ノ最多キ者ヲ以テ殘任期ノ
最長キ前任ノ補欠ト爲シ其數相同シキトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム

第二十七條 撰舉掛ハ撰舉録ヲ製シテ撰舉ノ顛末ヲ記録シ撰舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ撰舉人名簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ

投票ハ之ヲ撰舉録ニ附屬シ撰舉結了スルニ至ル迄之ヲ保存ス可シ

第二十八條 撰舉シ終リタル後選舉掛長ハ直ニ當撰者ニ其當撰ノ旨ヲ告知ス可シ其當撰ヲ辭セントスル者ハ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申シ出ツ可シ

一人ニシテ兩級ノ撰舉ニ當リタルトキハ同期限内何レノ撰舉ニ應スヘキコトヲ申立ツ可シ其期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其撰舉ヲ辭スル者トナシ第八條ノ處分ヲ爲ス可シ

第二十九條 撰舉人撰舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ撰舉ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得(第三十七條第一項)

町村長ハ撰舉ヲ終リタル後之ヲ郡長ニ報告シ郡長ニ於テ撰舉ノ効力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス郡參事會ニ付シテ處分ヲ行フコトヲ得

撰舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其撰舉ヲ取消シ又被撰舉人中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其人ノ當撰ヲ取消シ更ニ撰舉ヲ行ハシムヘシ

第三十條 當撰者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フモノアルトキハ其人ノ當撰ハ効力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ町村會之ヲ議決ス

第三十一條 市町村ニ於テハ郡參事會ノ議決ヲ經町村條例ノ規定ニ依リ町村會ヲ設ケス撰舉權ヲ有スル町村公民ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二十二條 町村會ノ其町村ヲ代表シ此法律ニ準據シテ町村一切ノ事件並從前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セラレル事件ヲ議決スルモノトス

第三十三條 町村會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ
一 町村條例及規則ヲ設ケ並ニ改正スル事
二 町村費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第六十九條ニ掲グル事務ハ此限ニ在ラス
三 歲入出豫算ヲ定メ豫算ノ外支出及豫算及超過ノ支出ヲ認定スル事
四 決算報告ヲ認定スル事
五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料、町村稅及人夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事

六 町村有不動產ノ賣買交換讓受讓渡並ニ質入書入ヲ爲ス事
七 基本財産ノ處分ニ關スル事
八 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

九 町村有ノ財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

百十三

十 町村吏員ノ身元保證金ヲ徴シ并其金額ヲ定ムル事

十一 町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

第三十四條 町村會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ屬スル町村吏員ノ撰舉ヲ行フ可シ
第三十五條 町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ町村長ノ報告ヲ請
求シテ事務ノ管撰議決ノ施行并收入支出ノ正否ヲ監査スル職權ヲ有ス

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ヘ差出スコトヲ得

第三十六條 町村會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

第三十七條 町村住民及公民タル權理ノ有無撰舉權及被撰舉權ノ有無選舉人名簿ノ
正否并其等級ノ當否代理ヲ以テ執行スル撰舉權(第十二條第二項)及町村會議員撰
舉ノ効力(第二十九條三)關スル訴訟ハ町村會之シ裁決ス

前項ノ訴訟中町村住民及公民タル權利ノ有無并撰舉權ノ有無ニ關スルモノハ町村
會ノ設ケナキ町村ニ於テハ町村長之ヲ裁決ス

町村會若クハ町村長ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ議決ニ
不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣郡參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判
所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ町村長ヨリ亦訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但裁決確定スルニ非サレ

ハ更ニ撰舉ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條 凡議員タル者ハ撰舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可ラサルモノトス

第三十九條 町村會ハ町村長ヲ以テ其議長トス若シ町村長故障アルトキハ其代理々
ル町村助役ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條 會議ノ事件議長及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事アルトキハ
議長ニ故障アルモノトシテ其代理者之ニ代ル可シ

議長代理者共ニ故障アルトキハ町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト爲スハシ

第四十一條 町村長及助役ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辨明スルコトヲ得

第四十二條 町村會ハ會議ノ必要アル毎ニ議長之ヲ召集ス若シ議員四分ノ一以上ノ
請求アルトキハ必ズ之ヲ召集ス可シ其召集並會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要ス
ル場合ヲ除クノ外少クモ開會ノ三日以前タル可シ但町村會ノ議決ヲ以テ豫メ會議
ノ日ヲ定ムルモ妨ケナシ

第四十三條 町村會ハ議員三分ノ二以上出席スルニ非サレバ議決スルコトヲ得ズ但
同一ノ議事ニ付召集再回ニ至ルモ議員猶三分ノ二ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第四十四條 町村會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ再議議
決ス可シ若シ猶同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ町

村會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス
議員ノ數此除名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ郡參事會町
村會ニ代テ議決ス

第四十六條 町村會ニ於テ町村吏員ノ選舉ヲ行フトキハ一名毎コ匿名投票ヲ以テ之
ヲ爲シ有効投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ
最多數ヲ得ル者二名ヲ取り之コ就テ更ニ投票セシム最多數ヲ得ル者三名以上同數
ナルトキハ議長自ラ抽籤ヲテ其二名ヲ取り更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過
半數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第二十二條、第二十三條、第
二十四條第一項ヲ適用ス

前項ノ選舉コハ町村會ノ議決ヲ以テ氏名推選ノ法ヲ用エルコトヲ得

第四十七條 町村會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得
第四十八條 議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選舉ノ事ヲ總理シ開會閉會并延會
ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ノ公然贊成又ハ擅入ヲ表シ又喧擾ヲ超ス者
アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十九條 町村會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シテ其議決及選舉ノ顛末并出席議員ノ
氏名ヲ記録セシム可シ議事録ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員二名以上之コ署名
ス可シ

町村會ノ書記ハ議長之ヲ撰任ス

第五十條 町村會ハ其會議規則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ハ科ス可キ過怠
金二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五十一條 第三十二條ヨリ第四十九條ニ至ルノ規定ハ之ヲ町村總會ニ適用ス

第三章 町村行政

第一節 町村吏員ノ組織及任

第五十二條 町村會ニ町村長及助役各一名ヲ置クヘシ但町村條例ヲ以テ助役ノ定員ヲ
増加スルコトヲ得

第五十三條 町村長及助役ハ町村會ニ於テ其町村公民中年齡滿三十歲以上者ヲ撰
舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

町村長及助役ハ第十五條第二項ニ掲載スル職ヲ兼ヌルコトヲ得ス
父子兄弟タルノ縁故アル者ハ同時ニ町村長及助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス若シ其縁
故アル者助役ノ選舉ニ當ルトキハ其當選ヲ取消シ其町村長ノ選舉ニ當リテ認可ヲ
得ルトキハ其縁故アル助役ハ其職ヲ退ク可シ

第五十四條 町村長及助役ノ任期ハ四年トス

町村長及助役ノ選舉ハ第四十六條ニ依テ行フ可シ
但投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依テ郡參事會之ヲ決ス可シ

第五十五條 町村長及助役ハ名譽職トス但第五十六條ニ有給村長及有給助役ハ此限
 在ラズ
 町村長ハ職務取扱ノ爲ニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコト
 得助役ニシテ行政事務ノ一部ヲ分掌スル場合(第七十條第二項ニ)於テモ亦同シ
 第五十六條 町村ノ情况ニヨリ町村條例ヲ規定シ以テ町村長ニ給料ヲ給スル事ヲ得
 又大ナル町村ニ於テハ町村條例規定ヲ以テ助役一名ヲ有給吏員ト爲ス其得
 有給町村長及有給助役ハ其町村民タル者ニ限ラス但選舉ニ應シ認可ヲ得ルトキ
 ハ其公民タルノ權ヲ得
 第五十七條 有給町村長及有給助役ハ三ヶ月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲ求ムル
 コトヲ得此場合ニ於テハ退職料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス
 第五十八條 有給町村長及有給助役ハ他ノ有給職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及
 重役トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ郡長ノ認許ヲ得ルニ非サレハ之レヲ爲スコト
 ヲ得ス
 第五十九條 町村長及助役ノ選舉ハ府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ
 第六十條 府縣知事前條ノ認可ヲ與ヘサルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要
 ス若シ府縣參事會同意セサルモ猶府縣知事ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ自
 己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得

府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長ハ又町村會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具申
 シテ其認可ヲ請フコトヲ得
 第六十一條 町村長及助役ノ選舉其認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲ爲スヘシ
 再選舉ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選舉ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間認可
 ノ權アル監督官廳ハ臨時ニ代理者ヲ撰任シ又ハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ町村長
 及助役職務ヲ管理セシム可シ
 第六十二條 町村ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ撰任
 ス收入役ハ有給吏員ト爲シ其任期ハ四年トス
 收入役ハ町村長及助役ヲ兼ヌルコトヲ得ス其他第五十六條第二項第五十七條及第
 七十六條ヲ適用ス
 收入役ノ撰任ハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ若シ認可ヲ與ヘサルトキハ郡參事會ノ意見
 ヲ聞クコトヲ要ス郡參事會之ニ同意セサルモ猶郡長ニ於テ認可ス可ナラスト爲ス
 下キハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルトキハ第六十條ヲ摘要ス
 郡長若シ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ府縣知事ニ具申シテ
 認可ヲ請フコトヲ得
 收入支出ノ實少ナル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役
 ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六十三條 町村ニ書記其地必要附屬員並使了ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム但町村長ニ相當ノ書記料ヲ給與シテ書記ノ事務ヲ委任スルコトヲ得

町村附屬員ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任シ使了ハ町村長之ヲ任用ス

第六十四條 町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ處務便宜ノ爲メ町村會ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分チ每區々長及其代理者各壹名ヲ置クコトヲ得區長及其代理者ハ名譽職トス

區長及代理者ハ町村會ニ於テ其町村ノ公民中撰舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ撰舉ス區會(第百十四條)ヲ設ケル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ撰舉ス

第六十五條 郡村ハ町村會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽職トス

委員ハ町村會ニ於テ町村會議員又ハ町村公民中撰舉權ヲ有スル者ヨリ撰舉シ町村長又ハ其委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ委員長トス

常設委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

第六十六條 區長及委員ニハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外町村會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十七條 町村吏員ハ任期滿限ノ後再撰セザルハコトヲ得

第二款 町村吏員ノ職務權限

第六十八條 町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務概目左ノ如シ

- 一 町村會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ町村會ノ議決其權限ヲ起エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ郡參事會ノ議決ヲ請フ可シ其權限ヲ超ヘ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 二 町村ノ設置ニ作ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事
- 三 町村ノ歲入ヲ管理シ歲入出豫算表其他町村會議決ニヨリテ定マリタル歲入出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事
- 四 町村ノ權利ヲ保護シ町村有ノ財産ヲ管理スル事
- 五 町村吏員及使了ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フコト其懲戒處分ハ罷責及五圓以下ノ過怠金トス

- 六 町村ノ諸證書及公文書籍ヲ保管スル事
 - 七 外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ其訴訟并和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人民商議スル事
 - 八 法律勅令ニヨリ又ハ町村會ノ議決ニ從テ使用料手数料町村税及夫役現品ヲ賦課徵收スルコト
 - 九 其他法律命令又ハ上伺指令ニヨリテ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事
- 第六十九條 町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス
- 一 司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依リテ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス
 - 二 浦役場ノ事務
 - 三 國ノ行以並府縣郡ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニ在ラス
- 右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ町村ノ負擔トス
- 第七十條 町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス
- 町村長ハ町村會ノ同意ヲ得テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

- 助役ハ町村長故障アルトキハ之ヲ代理助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス可シ
- 第七十一條 町村收入役ハ町村ノ收入ヲ受領ス其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル
- 第七十二條 書記ハ町村長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス
- 第七十三條 區長及其他代理者ハ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スルモノトス
- 第七十四條 委員(第六十五條)ハ町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辦スルモノトス
- 委員長ハ委員ノ議決ニ加ハルノ權ヲ有ス助役ヲ以テ委員長ト爲ス場合ニ於テモ町村長ハ臨時委員會ニ出席シテ其委員ト爲リ並議決ニ加ハルノ權ヲ有ス常設委員ノ職務權限ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケルコトヲ得
- 第三款 給料及給與
- 第七十五條 名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得實費辨償額報酬額及書記料ノ額(第六十三條第一項)ハ町村會之ヲ議決ス
- 第七十六條 有給町村長及有給助役其ノ有給吏員及使丁ノ給料額ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

町村會ノ議決ヲ以テ町村長及助役ノ給料額ヲ定ムルトキハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス郡長ニ於テ之ヲ許可ス可カラスト認ムルトキハ郡參事會ノ議決ニ付シテ之ヲ確定ス

第七十七條 町村條例ノ規定ヲ以テ有給吏員ノ退隱料ヲ設クルコトヲ得

第七十八條 有給吏員ノ給料退隱料其他第七十五條ニ定ムル給與ニ關シテ異議アルトキハ關係者ノ申立ニ依リ郡參事會之ヲ議決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條 退隱料ヲ受クル者官廳又ハ府縣郡市平民及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其間之ヲ停止シ又ハ更ニ退隱料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキハ其額與退隱料ト同額以上ナルトキハ舊退隱料ハ之ヲ停止ス

第八十條 給料退隱料報酬及辨償等ハ總テ町村ノ負擔トス

第四章 町村有財産ノ管理

第一款 町村有財産及町村稅

第八十一條 町村ハ其不動産積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ

臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ

定ムルモノハ此限ニ在ラス

第八十二條 凡町村有財産ハ全町村ノ爲メニ之ヲ管理シ及其共用スルモノトス但特ニ民法上權利ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條 舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルハ町村會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其舊慣ヲ改ムルコトヲ得ス

第八十四條 町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ得ントスル者アルトキハ町村條例ノ規定ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收シ之ヲ許可スルコトヲ得但徒ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十五條 使用權ヲ有スル者(第八十三條第八十四條)ハ使用ノ多寡ニ準シテ其土地物件ニ係ル必要ナル費用ヲ分擔スヘキモノトス

第八十六條 町村會ハ町村ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テハ使用權(第八十三條第八十四條)ヲ取上又ハ制限スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ法權ヲ有スル者ハ此限ニアラス

第八十七條 町村有財産賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入札ニ付ス可シ但臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償サルトキ又ハ町村會ノ認許ヲ得サルトキハ此限ニアラス

第八十八條 町村ハ其必要ナル支出及従前ノ法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニヨリテ賦課セラルル支出ヲ負擔スル義務アリ

町村ハ其産ヨリ生スル收入及使用料、手数料(第八十九條)并料料、過怠金其他法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ町村税(第九十條)及夫役現品(第一百一條)ヲ賦課徴收スルコトヲ得

第八十九條 町村ハ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ數個人ノ爲メニスル事業ニ付使用料又ハ手数料ヲ徴收スルコトヲ得

第九十條 町村税トシテ賦課スルコトヲ得可キ目左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 直接又ハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徴收スルヲ年例トス特別稅ハ附加稅ノ外別ニ町村ニ限リ稅目ヲ起シテ賦課スルコトヲ要スルトキ賦課徴收スルモノトス

第九十一條 此法律ニ規定セル條項ヲ除クノ外使用料、手数料(第八十九條)特別稅(第九十條第一項第二)及従前ノ町村費ニ關スル細則ハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定ス可シ其條例ハ料料一圓九十五錢以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

料料ニ處シ及之ヲ徴收スルハ町村長之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ令狀交付後十

四日以内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十二條 三ヶ月以上町村内ニ滞在スル者ハ其町村税ヲ納ムルモノトス但其課稅ハ滞在ノ初ニ遡リ徴收人可シ

第九十三條 町村内住居ヲ構ヘス又ハ二ヶ月以上滞在スルコトナシト雖モ其町村内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ハ其土地家屋營業若クハ其所得ニ對シテ賦課スル町村税ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

第九十四條 所得稅ニ附加稅ヲ賦課ス及町村ニ於テ特別ニ所得稅ヲ賦課セントスルトキハ納稅者ノ町村外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業(店舗ヲ定メタル行商ヲ除ク)ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除ス可キモノトス

第九十五條 數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ前條ノ町村税ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各市町村ニ平分シ其一部分ニノミ課稅ス可シ但土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ在ラス

第九十六條 所得稅法第三條ニ掲クル所得ハ町村税ヲ免除ス

第九十七條 左ニ掲クル物件ハ町村税ヲ免除ス
一 政府府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營造物及家屋
二 社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝美術及慈善ノ用ニ供スル土地、營造物及

家屋

三 官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ起シ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ其費用ヲ徴收スルハ此限ニ在ス

新開地及開墾地ハ町村條例ニ依リ年月ヲ限リ免稅スルコトヲ得

第九十八條 前二條ノ外町村稅ヲ免除ス可キモノハ別段ノ法律命令ニ定ムル所ニ從

フ皇族ニ係ル町村稅ノ賦課ハ追テ法律命令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第九十九條 數個人ニ於テ專ラ使用スル所ノ營造物アルトキハ其修築及保存ノ費用

ハ之ヲ其關係者ニ賦課ス可シ

町村内ノ一部ニ於テ專ラ使用スル營造物アルトキハ其部内ニ住居シ若クハ滞在シ

又ハ土地家屋ヲ所有シ(營業店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲ爲ス者ニ於テ其修築及

保存ノ費用ヲ負擔ス可シ但其一部ノ所有財産アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用

ニ充ツ可シ

第百條 町村稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免稅理由ヲ生シタル月ノ終迄月

割ヲ以テ之ヲ徴收ス可シ

會計年度中ニ於テ納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ町村長ニ届

出ツ可シ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅ヲ徴收スルコトヲ得

第百一條 町村公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及現品ヲ

以テ納稅者ニ賦課スルコトヲ得

但學藝美術又ハ手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接町村稅ヲ準率トナシ且之ヲ金額ニ算出シ

テ賦課ス可シ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ヲ當テ又ハ適當ノ代人ヲ出スコ

トヲ得又急迫ノ場合ヲ除クノ外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百二條 町村ニ於テ徴收スル使用料、手数料(第八十九條)町村稅(第十九條)夫役

ニ代フル金額(第一百一條)共有物使用料及加入金(第八十四條)其他町村ノ收入ヲ定

期內ニ納メザルトキハ町村長ハ之ヲ督促シテ猶之ヲ完納セザルトキハ國稅帶納處

分法ニ依リ之ヲ徴收ス可シ其督促ヲ爲スニハ町村條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徴收

スルコトヲ得

納稅者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度中ニ限リ納稅延期

ヲ許ルコトヲ得其年度ヲ超ユル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徴收金ノ追徵期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適

用ス

第百三條 地租ノ附加稅、地租ノ納稅者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル町村稅

ハ其所有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第四百四條 町村税ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三月以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可キ此期限ヲ經過スル下キハ其年度内減税免稅及償還ヲ請求スルハ權利ヲ失フモノトス

第四百五條 町村税ノ賦課及町村ノ營造物ノ町村有ノ財産並其所得ヲ使用スル權利ニ關スル訴願ハ町村長之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニ在ラス
前項ノ裁決ニ不服スル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服スル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得
第四百六條 町村ニ於テ公債ヲ募集スルハ従前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ムテ得サル支出若クハ町村永久ノ利益下ナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入増加スルトキハ其町村住民ノ負擔ニ堪ヘサルハ集合ニ限ルモノトス

町村會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法利息人定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スベシ
定額豫算内ノ支出ヲ爲シカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度内ノ收入ヲ以テ償還ス可キモノトス

第二款 百三十一 町村ノ歳入出豫算及決算

第四百七條 町村長ハ毎會計年度收入支出ノ豫知シ得可ヘキ金額ヲ見積リ年度前二ヶ月ヲ限リ歳入出豫算表ヲ調製ス可シ但町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

内務大臣ハ諸令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得
第四百八條 豫算表ハ會計年度前町村會ノ議決ヲ取り之ヲ郡長ニ報告シ並地方慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告スヘシ

豫算表ハ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ其町村事務報告書及財産明細表ヲ提出スルモノトス

第四百九條 定額豫算外ノ費用又ハ豫算外ノ不足ナルトキハ町村會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置キ町村長ハ豫メ町村會ノ認定ヲ受ケテ之ヲ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但町村會ノ否決シタル費途ニ充テシコトヲ得

第五百十條 町村會ニ於テ豫算表ヲ議決シタル後キハ町村長自リ其附屬ヲ以テ之ヲ收入役ニ交付スルシ其豫算表中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受クヘキ事項アルト

キハ(第五百二十五條ヨリ第五百二十七條ニ至ル)先其許可ヲ受ク可キ事
收入役ハ町村長(第六十八條第一項)又監督官廳ノ命令ヲ受ク非サズ以テ之ヲ支拂

ヲ爲スコトヲ得ス又收入役ハ町村長ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキ
カ又ハ其命令第九條ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第百十一條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クモ一回臨時検査ヲ爲
スヘシ例月検査ハ町村長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時検査ハ町村長又ハ其代理者ノ
外町村會ノ互選タル職員一名以上ノ立會ヲ要ス

第百十二條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入
役ヨリ之ヲ町村長ニ提出シ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ町村會ノ認定ニ
付スヘシ第六十二條第三項ノ場合ニ於テハ前例ニ依リ町村長ヨリ直ニ之ヲ町村會
ニ提出スヘシ其町村會ノ認定ヲ經タルトキハ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第百十三條 決算報告ヲ爲スコトキハ第四十條ノ例ニ準シテ職員代理者共ニ故障アル
モノトス

第五章 町村内各部ノ行政
第百十四條 町村内ノ區(第六十四條)又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村(第四條)ニ
シテ別ニ其區域總存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財產ヲ所有シ若シハ營造物ヲ設ケ
其一區限ニ特シ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ郡參事會ハ其町村會ノ意見
ヲ聞キ條例ヲ發行シ財産及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設ケルコ

トヲ得其會議ハ町村會ノ例ヲ適スルコトヲ得
第百十五條 前條ニ記載スル事務ハ町村ノ行政ニ關スル規則ニヨリ町村長之ヲ管理
スヘシ但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別スヘシ

第六章 町村組合

第百十六條 數町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ其協議ニヨリ監督官廳ノ許可ヲ得テ
其町村ノ組合ヲ設ケルコトヲ得
法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪フヘキ資力ヲ有セサル町村ニシテ他ノ町村ト合併(

第四條)ニスル協議整ハス又ハ其事情ニヨリ合併ヲ不便ト爲ストキハ郡參事會ノ
議決ヲ以テ數町村ノ組合ヲ設ケシムルコトヲ得
第百十七條 町村組合ヲ設ケルノ協議ヲ爲ストキハ(第六十六條第二項)組合會議ノ
組織事務ノ管理方法其費用ノ支辨方法ヲ併セテ規定スヘシ

前條第二項ノ場合ニ於テ其關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法等其他必要ノ
事項ヲ規定スヘシ若シ其協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ定ムヘシ
第百十八條 町村組合ハ監督官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解クコトヲ得ス

第七章 町村行政ノ監督

第百十九條 町村ノ行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ
監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督シ但法律ニ指定シタル場合ニ於テ郡參事會

及府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス
 第百二十條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外凡町村ノ行政ハ關スル郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事若クハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得町村ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出スヘシ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス
 此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴セントスル者裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴スヘシ
 行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ當該廳ノ意見ヨリ其停止ノ爲メ町村ノ公益ニ害アリト爲ズトキハ此限ニ在ラス
 第百二十一條 監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯乱滯滞セサルヤ否ヲ監督ス可シ監督官廳ハ之ヲ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ并實地ニ就テ事務ノ現況ヲ觀察シ出納ヲ檢閲スルノ權

ヲ有ス

第百二十二條 町村又ハ其組合ニ於テ法律命令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承諾セス又ハ實行セサルトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ町村又ハ其組合ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第百二十三條 凡町村會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セサルトキハ郡參事會代テ之ヲ議決ス可シ
 第百二十四條 内務大臣ハ町村會ヲ解散セシムルトキハ得解散テ命ザタル場合ニ於テハ同時ニ三ヶ月以内更ニ議員ヲ改撰ス可キヲ命スヘシ但改撰町村會ノ集會スル迄ハ郡參事會町村會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス
 第百二十五條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
 一 町村條例ヲ設ケ并改正スル事
 二 學藝美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物品ノ賣却讓與質入書入交換若クハ大ナル變更ヲ爲ス事
 前項第一ノ場合ニ於テ人口一萬以上ノ町村ニ係ルトキハ勅裁ヲ經テ之ヲ許可スヘシ

第二百二十六條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ町村ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及第百六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ在ラス

二 町村特別税并使用料手数料ヲ新設シ増設シ又ハ變更スル事

三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加税ヲ賦課スル事

四 關接國稅ニ附加税ヲ賦課スル事

五 法律命令ノ規定ニ依ル官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第二百二十七條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ニ郡參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ并改正スル事

二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十一條)

三 町村有不動産ノ賣却讓與并買入ヲ爲ス事

四 各個人特ニ使用スル町村有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事(第八十六條)

五 各種ノ保證ヲ與フル事

六 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非ラスシテ向五ヶ年以上ニ亘リ新ニ町村住民

ニ負擔スル事

七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加税ヲ賦課スル事(第九十條第二項)

八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ町村内ノ一部ニ費用ヲ賦課スル事

九 第一百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ニ賦課スル事

第二百二十八條 府縣知事郡長ハ町村長、助役、委員、區長其他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ隨責及過怠金トス郡長ノ處分ニ係ル過怠金ハ十圓

以下府縣知事ノ處分ニ係ルモノハ二十五圓以下トス

追テ町村吏員ノ懲戒法ヲ設ケル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用スヘシ

一 町村長ノ懲戒處分(第六十八條第二項第五)ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其郡

長ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二 郡長懲戒處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ懲戒處分及其裁決

ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三 本條第一項ニ掲載スル町村吏員職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情狀重キ者

又ハ行狀ヲ乱リ廢耻ヲ失フ者財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務掌ラサ

ル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ

(第六十七條懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス)

總テ解職セラレタル者ハ目已ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ
解職セラレタル場合ヲ除クノ外退隱料ヲ受ケルノ權ヲ失フモノトス

四 懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決ス其否決ニ不服アル者ハ府縣
參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ノ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコ
トヲ得監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ并給料ヲ停止スルコト
ヲ得

第二百二十九條 町村吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ超エタル事アルカ爲メ町
村ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ
裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ其府縣
參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得其訴願ヲ爲シタルト
キハ郡參事會ハ假ニ其ノ財産ヲ差押フルコトヲ得

第八章 附則

第三十條 郡參事會、府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務
ハ郡長府縣參事會ノ職務ハ府縣知事、行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可
シ

第三十一條 此法律ニ依テ初テ議員ヲ撰舉スルニ付村町長及村町會ノ職務并村町
條例ヲ以テ之ヲ定ム可キ事項ハ郡長又ハ指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第三十二條 此法律ハ北海道、沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル嶋嶼ニ之ヲ施行セ
ス別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第三十三條 前條ノ外特別ノ事情アル地方ニ於テハ町村會及町村長ノ具申又ハ郡
參事會ノ具申ニ依リ勅令ヲ以テ此法律中ノ條規ヲ中止スルコトアルヘシ

第三十四條 社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セズ現行ノ例規及其他ノ習
慣ニ從フ

第三十五條 此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタ
ル數ヲ云フ

第三十六條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接トスヘキ類別ハ內務大臣
及大藏大臣之ヲ告示ス

第三十七條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ
具申ニ依リ內務大臣ノ指揮ヲ以テ之ヲ施行ス可シ

第三十八條 明治九年十月第三十號布告各區町村金穀公借共有物取扱上土木起
功規則、明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法第六條及第九條但書、明治
十七年五月第十四號布告區町村會法、明治十七年五月第十五號布告、明治十七年
七月第二十三號布告「明治十八年八月第二十五號布告其他此法律ニ牴觸スル成規
ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第三百二十九條 內務大臣ハ此法律施行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布ス可シ

◎市町村會議員選舉罰則

朕市町村會議員選舉罰則ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月二十九日

內閣總理大臣 伯爵 山縣有朋
內務大臣 伯爵 西鄉從道
司法大臣 伯爵 山田顯義

法律第三十九號

○市町村會議員選舉罰則

第一條 凡テ選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ選舉人名簿ニ記載セシレタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
議員タルコトヲ得サルノ實ヲ告クスシテ議員トナリタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メ投票ヲ爲スコトヲ抑

止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第三條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉會場ノ近傍若クハ選舉人往來ノ途中ニ於テ選舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ選舉會場ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シタル者ハ第二條物品授與ノ例ニ依リ處斷ス
其供給ヲ受ケタル亦同シ

第四條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ノ爲ニ選舉會場ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ宿泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シタル者ハ第二條金錢授與ノ例ニ依リ處斷ス
其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第五條 第二條第三條及第四條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

第六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ十五日以上三ヶ月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉人ヲ脅迫シ拘引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其選舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ第六條暴行ノ例ニ

依リ處斷ス

第八條 第六條及第七條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九條 撰舉人ヲ脅迫シ若クハ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ却奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 撰舉ノ際撰舉ニ關スル吏員若クハ撰舉掛ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十一條 多衆ヲ嘯聚シテ第七條ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其情ヲ知リ嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第九條第十條第十一條ノ場合ニ於テ犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第十三條 撰舉會場所在ノ郡市内ニ於テ撰舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺嗽叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用キル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受ルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上十二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條 被撰人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被撰人タルコトヲ得ス又ハ當撰ヲ承諾スルノ意ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ撰舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シ又ハ撰舉人タルコトヲ得スシテ投票ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 當撰人第二條乃至第十六條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其當撰ハ無効トス

第十九條 本法ニ規定シタルモノ、外刑法ニ正條アルモノハ各々其條ニ依リ重キニ依テ處斷ス

第二十條 本法ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第二十一條 本法ハ市町村會ノ外市制町村制並ニ明治二十二年法律第十一號ニ據リテ開設スル各種ノ議會議員撰舉ニモ適用ス

◎議會并議員保護ノ件

明治二十二年十一月七日

(法律第二十八號)

第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條

ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

◎衆議院議員撰舉法罰則補則

(法律第四十號)

第一條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ撰舉會場又ハ投票所ノ近傍若クハ撰舉人往來ノ途中ニ於テ撰舉人ニ酒肴ヲ供シ又ハ撰舉會場若クハ投票所ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シ及其供給ヲ受ケタル者又撰舉人ノ爲ニ撰舉會場若クハ投票所ニ往復スル爲車馬賃又ハ路費若クハ宿泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シ及其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議院議員撰舉法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス

第二條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ撰舉人ヲ脅迫シ拘引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其撰舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員撰舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ衆議院議員撰舉法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス

第三條 被撰人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被撰人タルコトヲ得ス又ハ當撰ヲ承諾スルノ意ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 撰舉會場又ハ投票所所在郡ノ市内ニ於テ撰舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若シクハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鑼鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用ヘル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受クルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 當撰人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ衆議院議員撰舉法第九十九條ノ例ニ依ル

第七條 本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員撰舉法第四百四條ノ例ニ依ル

◎地租條例ニ關スル諸規則 明治十年二月十三日

(大政官第十八號布告)

地租改正後買上地拂下地潰地等收稅區分左之通相定候條此旨布告候事

第一條 民有地ヲ買上ルトキハ其年分ノ稅ハ買上タル前月分マテ月割ヲ以テ收入スヘシ

第二條 官有地ヲ拂下ルトキ其年分ノ稅ハ拂下タル翌月分ヨリ月割ヲ以テ收入スヘシ

◎第七號 明治十七年三月十五日太政官布告

全二十二年十一月二十九日法律第三十號改正

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第二百七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ牴觸スル者ハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原嶋函館縣沖繩縣幌札縣根室縣ハ當分從前ノ通タルハシ

右奉 勅旨布告候事

◎地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二ケ半ヲ以テ一年ノ定率トス但本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ハ區別シテ二類ト爲ス、

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、畑田、鑛泉地、

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地

第一類 中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノテ地目變換ト謂フ

第二類 地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地トナスモノ開墾ト謂フ

第壹類 地又ハ第二類地ノ山崩、山欠、押掘、石砂入、川成、海成、湖水成ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 公立學校鄉村社地、墳墓地、用悪水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地、禁伐林及ヒ公ケノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩ト爲シ三十歩ヲ畝ト爲シ十畝ヲ段ト爲シ十段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方一間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ拾分壹ヲ勾ト爲ス

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス

第七條 地價ハ其地變換開墾又ハ第一類地ヲ第二類ニ變換シタルトキニ非サレハ之ヲ修正セズ

第八條 一般ニ地價ノ修正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應ジ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方廳ニ届出ヘシ

地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正ス六年目ヨリ修正地價ニ依リ地價ヲ徵收ス但シ第十六條第六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地租ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收ス但賃人ノ土地、其買取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ

第十三條 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地、禁伐林ト爲ストキハ其地租ハ許可又ハ命令ヲ受ケタル月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用悪水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地、及公眾ノ用ニ供スル道路ト爲ストキハ其地租ハ工事着手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

免租地ヲ有租地ト爲ストキハ其地租ハ許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徵收ス

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ届出ヘシ

前項ノ開墾地ハ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ願出鐵下年期ノ許

可受クヘシ 歟下年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地價ニヨリ地租ヲ徵收ス
官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙十年
以内ノ歟下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニヨリ地租ヲ徵收ス
官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内新開免租年期ヲ許可ス
耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ノ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費
ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價據置年期ヲ許可スルコトアル
ヘシ

第十七條 削除

第十八條 第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功ノ至ラサルモノハ
更ニ二十年以内ノ繼年期ヲ許可ス

第十九條 歟下年期明地價據置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正
ス

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ元地價ニ
復ス

海嘯ノ爲メ潮水浸入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニヨリ前項ニ準據スルコト
アルヘシ

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内

七割以下ノ定價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ
現地目ニ徵セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租
繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依
リ處分ス

第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更
ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス地目ニ變セ
サルモノハ川、海、湖ニ歸スルモノトス

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現
地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以内ニ溯ルコ
トヲ得ス

第二十六條 第十一條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニヨ
リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以
下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲ササル者ハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額
ヲ追徵ス

但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス
 第二十八條 第二十五條以下ノ處犯借地人小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス
 第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ルモノ自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

◎明治廿二年一月二十二日布告
 朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年一月廿二日

内閣總理大臣 伯爵 黒田 清隆
 陸軍大臣 伯爵 大山 巖
 海軍大臣 伯爵 西郷 從道

法律第一號

徵兵令

第一章 總則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ

義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備投トス

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ五箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ四箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及後備兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際アルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐留中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身体藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵工兵砲兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及嶋嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ
 但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニアラス
 警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在

營期限ハ一箇年以内トス

第九條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ固リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減縮スルコトナシ

第十條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十一條 滿十七歳以上滿二十六歳以下ニシテ官立學校(小學科及撰料等ノ別料ヲ除ク)府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理化學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額自辨ニ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアルヘシ(二十二年十一月十二日法律第二十九號ヲ以テ)(官立學校)ノ下割注ニ(帝國大學科及小學科ヲ除ク)トアルヲ本表ハ如ク改ム

前項ノ一年志願兵ハ特別ノ教育ヲ授ケ現役滿期ノ後二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

滿十七歳以上二十六歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給

トス全上法律ヲ以テ本項ヲ改正ス

前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム同上

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ常例ノ兵役ニ服セシム但第二項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス同上法律ヲ以テ追加ス

第十二條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ陸博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十三條 現役中殊ニ勤務ニ熱シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十五條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集ス平常ニ在テハ勤務 習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十六條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限リ之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫

第十七條 兵役ト免スルハ癡疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十八條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ尙ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身體未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第十九條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活ニ能ハサル確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ猶ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活ニ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可ス

第二十一條 第十一條第一項ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十六歲迄ニ止ミ又ハ二十六歲ヲ過クルモ尙ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十一條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十一條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニアラス同上法律ヲ以テ本項ヲ改正ス

學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス二十六歲迄ニ歸朝シ又ハ二十六歲ヲ過キ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵

集ス但陸軍試驗委員試驗ニ及第シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第二十二條 余人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助役及收入役ハ豫備兵ニ在ト後備兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第四章 豫備徵員

第二十三條 抽籤番號ノ順序ニ從ヒ前年所要ノ現役兵員ニ超過スル壯丁ハ一箇年間(十二月一日ヨリ起算ス)豫備徵員トシテ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ニ要スルトキ又ハ其年徵集ノ兵員缺クトキハ之ヲ徵集ス

第二十四條 豫備徵員ニシテ其期限内ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第五章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ書面ヲ以テ(戶主ニ非サル者ハ其戶主ヨリ本籍ノ市町村長ニ届出可シ)但二十歲未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルテ例トス他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リテ其區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ事故ナクシテ身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 現役年期ノ計算ハ總テ其入營スル年ノ十二月一日ヨリ起算シ豫備役及後備役年期ノ計算ハ其轉役スルノ十二月一日ヨリ(第十一條第三項ニ依リ服役スル者ノ現役年期ノ計算ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル月日ヨリ起算ス)第六條ニ依リ延期シタル者モ其起算法又同シ但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ附セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス(同上法律ヲ以テ割注ヲ追加ス)

第六章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サ、ル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江刺及福山ヲ除クノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ハ當分ニテ施行セス

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトハス

第三十五條 舊令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シタル者ハ本令第十一條ニ照シ二箇年間豫備役ニ五年間後備役ニ服セシメ其豫備役二箇年ヲ終リタル者ハ直ニ後備役ニ服セシメ通シテ七箇年トス

第三十六條 舊徵兵令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ属シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ尙ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ既ニ徵集猶豫ニ属シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ尙ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニヨリ徵集猶豫ニ属シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ尙ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ尙ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ尙ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十八條及第三十九條ニ掲グル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故六箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ六箇年ヲ過クルモ尙ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間(明治二十一年十二月一日ヨリ起算ス)ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲シ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員トナリタル者亦同シ

第四十四條 明治二十二年第四十六號布告徵兵令ニヨリ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依リ

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲グル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲グル徵集猶豫ノ者其事故各本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出ヘシ

第四十七條 第三十九條及第四十條ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歳迄ニ其徵職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ(同上法律ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第一項第二項ノ届出ヲ爲ササル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分スヘシ
全上法律ヲ以テ(前項)トアルヲ(第一項第二項)ト改ム

國民軍條例

明治二十八年

(勅令第十三號)

第一條 國民軍ハ陸軍ニ屬シ主トシテ衛戍若クハ邊境ノ警備ニ充ツ

第二條 國民軍ハ國民兵ヲ以テ之ヲ編制ス

第三條 國民兵ノ召集及ヒ解散勅令ニヨリ師團長之ヲ行フ

戒嚴ヲ宣告シ得ルヲ權アル司令官時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ途ナキトキハ直ニ召集ヲ行フコトヲ得

第四條 國民軍幹部ハ必要ニ應シ現役隊備後備ノ陸軍將校、同相當官、准士官下士ヲ以テ充ツルノ外左ニ渡タル者ヨリ撰拔シテ之ニ充ツ

- 一 退役陸軍將校、同相當官、准士官ニシテ國民兵役ニ在ル者若クハ國民軍編入志願ノ者
- 二 元陸軍下士、上等兵ニシテ國民兵役ニ在ル者若クハ國民軍編入志願ノ者
- 三 國民兵中材能技料アル者

第五條 陸軍後備兵ニシテ後備軍召集ニ加ハラサル者ハ特ニ國民軍ニ編入スルコトヲ得

第六條 第四條第二第三ニ該ル者ノ任官ハ陸軍武官官等表ニ依リ士官以上ハ師團長ノ具狀ニ由リ陸軍大臣之ヲ奏薦官行シ其ノ他ハ師團長ノ認可ヲ得テ聯隊長同權以上ノ權アル長官之ヲ行フ

第三條第二項ニ依リ召集ヲ行ヒタル司令官ハ召集員ニ士官以上ノ勤務ヲ命スルコトヲ得

其勤務ヲ命セラレタル者ノ身分取扱ハ其ノ官職ヲ有スル者ニ準ス
前項ノ司令官師團長ニアラサルトキハ准士官以下ノ任官ニ付師團長ト同一ノ權ヲ有ス

第七條 國民軍幹部ノ進級ハ援擢トス其ノ任官ハ前條ノ例ニ依ル

第八條 國民軍編制ノ爲メ召集セラレタル者及志願ニ由リ國民軍ニ編入セラレタル者ハ其ノ間現役ニ準ス

第九條 第四條第三ニ該リ任官シタル者解散ノトキハ准士官以上ハ之ヲ退役トシ下士ハ其ノ官ヲ免ス

◎陸軍省令第三號

◎國民軍召集規則左之通定ム

明治二十八年二月一日

陸軍大臣 伯爵西鄉從道

國民軍召集規則

第一章 總則

第一條 國民兵召集ヲ別テ左ノ四種トス

第一種 陸軍ニ於テ軍事教育ヲ受ケタル者

第二種 滿二十一歳以上二十六歳未滿ニシテ陸軍ニ豫備徵員タリシ者

第三種 滿二十六歳以上三十歳未滿ニシテ豫備徵員タリシ者

第四種 前三種ニ屬セサル者

第二條 各種ノ國民兵召集ハ各種同時若クハ各別ニ之ヲ行ヒ又ハ一部ノ地方ヲ限リ之ヲ行フコトヲ得

第三條 各種ノ國民兵ハ年齢若キ者ヨリ之ヲ召集スルヲ例トス

年齢十七歳以上二十歳迄ノ國民兵ハ特別ノ命令アルニテラサレハ之ヲ召集セス

第四條 本規則ニ於テ郡ト稱スルハ市、(東京、京都、大阪ノ三市ニ在テハ區)及嶋嶼ヲ置キタル島嶼ヲ包含ス

第五條 本規則ニ於テ師團長ト稱スルハ近衛師團長ヲ包含セス又警備隊區ニ在テハ

同司令官ハ大隊區司令官、嶋司郡長、市長（東京京都大阪ノ三市ニ在テハ區長）ノ郡長及町村長戸長ハ町村長ノ職務ヲ行フ

第六條 戒嚴ヲ宣告シ得ル權アル司令官國民兵ノ召集ヲ行フ場合ニ在テ師團長ニマテサル司令官ハ其召集ニ關シ師團長ト同一ノ職權ヲ有ス

第二章 召集

第七條 師團長國民兵召集令ヲ下ストキハ之ト同時ニ召集ノ種類所要ノ人員及召集地ヲ定テ旅團長ヲ經テ大隊司令官ニ達シ地方長官ニ通知スルシ一師團長所要ノ人員ヲ定ムルニハ召集區域中召集ノ種類毎ニ其總員（不應招員ノ見込數ヲ省キタルモノ）率トシ比例ヲ以テ之ヲ各大隊區ニ配賦ス但配賦人員ニハ檢査不合格見込人員凡十分ノ一ヲ加算スルモノトス

第八條 大隊區司令官前條ノ達ヲ受クレハ各郡ニ配賦スヘキ人員召集地及應招員ノ一旦集合スヘキ地點並ニ其集合期日ヲ定メ之ヲ郡長ニ通達ス

大隊區司令官召集人員ヲ定ムルハ大隊區中召集ノ種類毎ニ其總員ヲ率トシ比例ヲ以テ各郡ニ之ヲ配賦ス

大隊區司令官ハ各郡ノ應招員並ニ其召集地到着ノ期日ヲ豫定シ之ヲ旅團長ヲ經テ師團長ニ報告スヘシ

第九條 郡長ハ地方長官ヨリ國民兵召集ヲ受領シ大隊區司令官ヨリ前條第一項ノ通

達ヲ受ケタルトキハ召集令召集スヘキ人員召集集合地及集合期日ヲ町村長ニ通達シ集合地ニハ吏員ヲ派遣スヘシ

郡長召集人員ヲ定ムルハ郡中召集ノ種類毎ニ其總員ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ各町村ニ配賦ス

第十條 町村長前條ノ達ヲ受ケタルトキハ其配賦人員ニ應シ第一様式ノ召集令傳達書ヲ作り之ヲ國民兵中召集スル種類ニ相當スル者ノ内年齢若キ者ヨリ逐次ニ之ヲ交付シ配賦人員ニ充タシメ然ル後集合地ニ至リ派遣ノ郡吏員ニ第二様式ノ應召員連名簿二通ヲ附シテ應召員ニ交付スヘシ此名簿ニハ其町村長ニ在籍スル國民兵中召集令傳達書ヲ交付シタル總テノ人員ヲ掲ク不應召員ハ其事由ヲ記シ第十二條ノ書類ヲ添フヘシ

第十一條 召集傳達書ヲ受ケタル國民兵ハ町村長ノ指示ニ從ヒ該傳達書ヲ携帯シ發送スヘシ

第十二條 正當ノ事故ニ因リ召集ニ應ジ難キモノハ本人或ハ戸主若クハ其家族ヨリ二十四時間以内ニ町村長ニ届出ツヘシ但其事故傷痕疾病ニ係ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ其他ハ憲兵ハ警察官ノ承認書ヲ添フヘシ
前項ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十三條 郡吏員集合地ニ至レハ町村長ヨリ受領セシ連名簿ヲ大隊區司令官或ハ大隊區司令部出張員ニ差出スヘシ

第十四條 應召員集合地ニ到着スレハ大隊區司令官或ハ大隊區司令部出張員身體検査ヲ爲サシメ合格不合格ヲ召集令傳達書並ニ連名簿ニ記入シ連名簿一通ハ之ヲ郡吏員ニ傳達書ハ之ヲ本人ニ返附シ其合格者ハ郡吏員ヲシテ召集地ニ引率セシメ不合格者ハ面テニ歸郷セシムヘシ但身體検査ハ最寄衛戍地ノ在職軍醫若クハ地方醫師ヲシテ之ヲ行ハシム

第十五條 郡吏員應召員ヲ引率シ召集地ニ到着セタルトキハ連名簿ト共ニ之ヲ國民兵受領員ニ交付スヘシ

第十六條 召集地ニ於ケル國民兵受領員ハ師團長適宜ニ之ヲ編成スヘシ

第十七條 召集令傳達書ハ應召員ヨリ編入セラレタル部隊ニ差出スモノトス

第十八條 陸軍召集條例第二章本則ニ矛盾セサルモノハ之ヲ準用ス

第三章 旅費支給

第十九條 國民兵召集旅費ハ當該監督部長陸軍大臣ノ命令及師團長ノ請求ヨリ居住地ヨリ集合地迄ノ概算額ハ之ヲ陸軍臨時召集旅費支出規定ニ定ムル所ノ出納官吏ニ送附シ出納官吏ハ適宜之ヲ應召員ニ交付スヘシ
其集合地ヨリ召集地迄ノ旅費及検査不合格者ノ歸郷旅費概算額ハ之ヲ大隊區司令

官ニ交付シ該司令官又ハ司令部出張員ヨリ本人ニ送付スヘシ

第二十條 國民兵召集旅費ハ陸軍給與令第三十七條ノ額ニヨリ

第二十一條 志願ヨリ國民軍ノ幹部ニ充テラレタル者ハ前條ノ例ニヨリ編成地ニ於テ旅費ヲ給ス

第四章 雜則

第二十二條 第六條ノ場合ニ在テ前諸條ノ規則ニヨリ難キトキハ司令官必要ニ應シ適宜處置スルコトヲ得

第二十三條 後備軍召集ニ應セサル在郷軍人ニシテ國民兵ト共ニ召集セラル、時ハ其召集手續ハ本規則ヨリ施行スルコトヲ得 (様式略ス)

◎狩獵法

明治二十八年三月二十日

(法律第二十號)

第一章 獵具獵法

第一條 此法律ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、各種ノ網、放鷹、綱繩又ハ撿ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ

前項獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二條 爆發物、据銃若ハ危ナル毘及陷穿ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第一條ニ掲ケザルモノニ就テハ地方長官(東京府下ハ

警視總監以下做之ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三條 日出前、日没後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ若ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル建物、船舶、汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 左ニ掲クル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 御獵場
- 二 禁獵制札アル場所
- 三 公道
- 四 公園
- 五 社寺境内
- 六 墓地

七 柵、柵、圍障又ハ作物植付アル他人ノ所有地及免許ヲ受ケタル他人ノ共同狩獵地但シ所有者又ハ管理人ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 地方長官ハ土地所有者ノ出願又ハ其他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ禁獵制札ヲ建ツルコトヲ得

第二章 狩獵ノ許

第六條 狩獵ヲ爲サムト欲スル者ハ地方長官ニ願出テ免許ヲ受ケクヘシ但シ柵、柵、圍障アル所有地内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過セサレハ再ヒ免許ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 從來地方ノ慣行ニ依リ一定ノ區域内ニ於テ共同狩獵ヲ爲ス者ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ願出テ免許ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ出願ニ關スル規則ハ

農商務大臣之ヲ定ム

第八條 免許ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種免許ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ乙種免許ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

第九條 免許ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムハシ

一等	所得稅十五圓以上若クハ地租二百圓以上	甲種金五圓
二等	所得稅三圓以上若クハ地租四拾圓以上納ムル者又ハ一等ニ相當スル者ノ家族	乙種金十圓
三等	一等二等以外ノ者	甲種金一圓五拾錢

甲種	金一圓
乙種	金三圓
甲種	金五十錢
乙種	金一圓

第十條 甲種免許ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ滿一箇年トシ乙種免許ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス

地方長官ハ土地ノ狀況ニ因リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ前項ノ期限ヲ三十日以内伸縮スルコトヲ得

第十一條 免許ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス但シ助手ヲ要スル獵法ニアリテハ免許ヲ有セサル者ヲ同伴スルコトヲ得

第十二條 獵者ハ出獵ノ際免許ヲ携帯スヘシ

警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免許ヲ検査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免狀ノ検査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ他ノ所轄警察官署及當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ヘシ

免狀亡失シ若ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡又ハ換書ヲ請求スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ手数料金二十五錢ヲ納ムヘシ

第十四條 十六歳未満ノ者ハ乙種免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條 免狀ハ其ノ効力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ

第十六條 遊歩規定ノ制限アル外國人ニシテ狩獵免狀ヲ受クル者ハ甲種金五圓乙種

金十圓ノ免許稅ヲ納メ其ノ規程内ニ限リ狩獵スルコトヲ得若其ノ規定外ニ於テ狩

獵シタルトキハ該免狀ハ爾後無効タルモノトス

第三章 鳥獸保護

第十七條 保護ヲ必要トスル鳥獸ヲ捕獲シ又ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス但シ捕獲ノ

禁止又ハ停止以前ニ於テ捕獲シタル鳥獸ハ其ノ禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週間以内

ニ於テ販賣スルハ此限ニ在ラス

飼養ニ係ル保護鳥獲ハ前項期日後ト雖農商務大臣ノ定ムル所ノ規則ニ依リ販賣スルコトヲ得

捕獲ヲ禁止シ又ハ停止スヘキ保護鳥獸ノ種類及制限ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十八條 捕獲ヲ禁スル鳥類ノ卵又ハ雛ヲ取り若ハ之ヲ販賣スルコトヲ禁ス

第十九條 捕獲ヲ禁スル鳥獸ト雖學術研究其ノ他特別ノ理由ニ因リ捕獲ヲ要スルト

キハ地方長官ハ特ニ其ノ許可ヲ與フコトヲ得

有害鳥獸ヲ驅除スル爲必要ト認ムル場合ニ於テモ亦同シ

第四章 罰則

第二十條 第六條第一項ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ第十四條ニ違背シテ乙種免狀ヲ

受ケタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第九條ニ違背シテ免狀ヲ受ケタル

者ハ七圓以上七拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 第二條第一項、第三條、第四條、第一乃至第六ニ違背シタル者ハ五圓以

上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ効力ヲ失フモノトス

第二十二條 第四條第七、第十二條第三項、第十七條第一項、第十八條ニ違背シタル

者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第四條第七ニ付テハ土地所有者又ハ管

理人ノ告訴ヲ待テ處斷ス

第二十三條 第十二條第一項、第十三條第一項、第十五條ニ違背シタル者ハ一圓以上

壹圓九拾五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第二十四條 狩獵ニ關スル從前ノ規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス
此ノ法律施行以前設定ノ免許ヲ受ケタル獵區ハ其ノ免許期限間効力ヲ有スルモノトス

第二十五條 此ノ法律施行以前免許ヲ受ケタル者ハ更ニ免許ノ下付ヲ要セス引續キ狩獵ヲ爲スコトヲ得

◎狩獵法施行細則

明治二十八年 三月二十七日

(農商務省令第四號)

第一條 狩獵法第一條ニ掲クル各種ノ網ハ無聲、投網、震網其他ノ張網トシ網繩ハ流シ網張、網繩トシ又ハ撥ハ高撥、千本撥トス

第二條 銃器ノ制限ハ銃砲取締規則ノ定ムル所ニ依ル

第三條 狩獵免狀ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ免狀ノ種類及住所族籍職業氏名年齢ヲ詳記シ且狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルコトノ有無及若シ處罰ヲ受ケタルコトアルトキハ其年月日ヲ附記スヘシ

第四條 狩獵免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルトキハ其手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

前項ノ登記印紙ハ請求書ニ貼付消印スヘシ

第五條 狩獵免狀ヲ受ケタル者ニシテ族籍氏名ヲ變換シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ地方長官(東京府下ハ警視總監以下之ニ倣フ)ニ又其移轉ノ地其他ノ管轄廳ニ屬スルトキハ甲乙兩地ノ地方長官ニ三週日以内ニ届出ツヘシ

第六條 禁獵制札ノ建設ヲ要スル者ハ其理由ヲ詳記シ地方長官ニ願出スヘシ但該建設費ハ出願者ノ負擔トス

第七條 地方長官ニ於テ建設スヘキ禁獵制札ノ離形左ノ如シ
(制札ノ離形ハ略ス)

第八條 共同狩獵地ノ免許ヲ受ケント欲スル者ハ免許期限ヲ定メ其地形面積ヲ記載シタル圖面及其土地ニ於ケル狩獵ノ慣行ヲ詳記シタル書類ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ
免許ノ繼續ヲ出願スルトキ亦同シ

第九條 共同狩獵地ノ免許ヲ受ケント欲スル場所官有ニ屬スルトキハ豫メ管轄官廳ニ願出テ使用ノ許可ヲ受クヘシ若シ其場所他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者ノ承諾ヲ受クヘシ

前項ノ許可若クハ承諾ヲ受ケタルトキハ第八條ノ願書ニ其書類ノ寫ヲ添付スヘシ
第十條 共同狩獵地ノ區域ヲ變更セント欲スルトキハ其地形面積及變更ノ區分ヲ明記シタル圖面ヲ願書ニ添付シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

共同狩獵地ヲ廢シタルトキハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ届出ツヘシ
第十一條 共同狩獵地ニハ其周圍五十間ヲ超ヘサル距離毎ニ見易キ場所ヲ選ビ左ノ
雛形ニ據リ木標ヲ建設シ其旨所轄警察署ニ届出ツヘシ

(木標ノ雛形ヲ畧ス)

第十二條 公益ノ爲メニ必要ト認ムルトキ又ハ免許人第十一條ノ制限ニ從ハサルト
キハ共同狩獵地ノ全部若クハ一部ニ對シテ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條 第十一條第十二條ハ狩獵法第二十四條第二項ノ鷓鴣區ニモ適用ス

第十四條 左ニ掲クル鳥類ハ捕獲スルコトヲ禁止ス

一 鶴 一 燕岩燕ヲ除ク 一 小雀 一 日雀 一 四十雀

一 五十雀 一 柄長 一 鴛鴦 一 杜鵑 一 郭公

一 三光鳥

第十五條 左ニ掲クル鳥類ハ三月十六日ヨリ十月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

一 雉 一 鷓鴣

第十六條 左ニ掲クル鳥類ハ四月十六日ヨリ八月十四日マテ捕獲スルコトヲ停止ス

一 鶺鴒 一 椋鳥 一 鶺鴒 一 雲雀 一 鶺鴒

一 鶺鴒 一 小啄木 一 雷鳥 一 松鷄 一 鳩(鴿ヲ除ク)

第十七條 牝鹿ハ十月一日ヨリ七月十五日マテ牝鹿ハ十月一日ヨリ十一月三十日マ

テ捕獲スルコトヲ停止ス

第十八條 北海道ニ於テハ第十七條保護期外タリトモ鹿ノ捕獲ヲ停止ス

第十九條 營業ノ爲メ保護鳥獸ヲ飼養スル者ハ捕獲禁止又ハ停止ノ日ヨリ二週日ヲ

經過シタル翌日現在ノ名稱及員數ヲ三十日以内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

前項ノ鳥獸ニシテ蕃殖又ハ斃死シタルトキハ其年月日及鳥獸ノ名稱員數ヲ三十日

員以内ニ所轄警察官ニ届出ツヘシ

第二十條 保護鳥獸ヲ販賣シタルトキハ其買受人ノ住所氏名年月日及鳥獸ノ名稱數

ヲ三十日以内ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

◎登録税法

(明治二十九年三月二十七日)

法律第二十七號

第一條 登録税ハ本法ノ定ムル所ニヨリ賦課徴收ス

第二條 地所、建物ノ登記ヲ請フトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

一 買受人 賣買代價千分ノ二十二

二 家督相續人 戸主ノ死亡、失踪 時價相當價格千分ノ五

但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタル時ハ時價相當價格千分ノ十トス

三 遺産相續人 時價相當價格千分ノ十

四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者 時價相當價格千分ノ二十

- 五 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五
 - 六 強制競買ノ申立人 價格千分ノ五
 - 七 強制管理ノ申立人又ハ假差押假處分ノ申請人 價格千分ノ三
 - 八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金拾錢
 - 九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ二
- 六號及七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルモノハ時價相當價格ニヨル
- 第三條 船舶ノ登記ヲ請フトキ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
- 一 買受人 賣買代價千分ノ十
 - 二 家督相續人 戶主ノ死亡、失踪、離縁、跡相續人共 時價相當價格千分ノ二
 - 但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ 時價相當價格千分ノ五トス
 - 三 遺產相續人 時價相當價格千分ノ五
 - 四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者 時價相當價格千分ノ五
 - 五 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五
 - 六 強制競買ノ申立人 價格千分ノ五
 - 七 假差押、假處分ノ申請人 價格千分ノ三
 - 八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金拾錢

九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ一

六號及七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルモノハ時價相當價格ニヨル

第四條 船舶ノ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録 十五噸以上ノ船舶 金五拾錢
- 二 轉籍 十五噸以上ノ船舶 每十噸金五拾錢
- 三 除籍 十五噸以上ノ船舶 每十噸金五拾錢
- 四 登錄事項ノ變更 十五噸以上ノ船舶 每十噸金五拾錢
- 一號、二號及三號ノ場合ニ於テ十五噸以上ノ船舶ヲ登録スルトキ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

第五條 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録 地價千分ノ二十
- 二 地價設定 復舊 地價千分ノ十
- 三 地價修正 共 地價千分ノ十
- 四 開墾 地價千分ノ十